

長浜米原しょうがい者自立支援協議会

令和 6 年度活動報告

添付書類①地域生活塾プロジェクト提言書

添付書類②令和 6 年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会部会報告書

添付書類③ライフステージ専門性部会専門的人材班発達 G アンケート結果まとめ

添付書類④ライフステージ専門性部会成人高齢班アンケート結果まとめ

長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局

I 長浜米原しょうがい者自立支援協議会の概要

I 基本理念

地域自立支援協議会（以下「協議会」と言う。）の意義は、①相談支援を中心としたしょうがい者等への支援体制の整備を図ること、②「人と人をつなぐこと」、「地域で暮らし続けられるまちを作るための仕組みを発案して実働していくこと」、③「しょうがい福祉の関係者以外の人ともつながること」がある。

協議会運営の特徴として、「要求や陳情を行う側と受け止める側」といった関係性ではなく、立場や経験や職種の違う方たちが、同じテーブルに座って、一緒に汗をかきながら考え、知恵を出し合い、動いていくということにある。協議会に必要なことは「対立」ではなく「協働」である。「誰かがやってくれる」「〇〇がこのようなすべきだ」ではなく、「目的を達成するためにはどうすればいいのか」を協議会の構成員一人ひとりが主体的に自分の頭で考えることが必要である。自分の所属の立場に拘束されず、無責任にならず、率直な話し合いができて、なにかが変わっていく夢や希望を持てる会議体にしていく意識をもって参加することが大切である。

また、当事者が参画することで支援者同士では気づかない課題を顕在化できる場合があることを念頭におき、当事者が持つ思いこそがしょうがい者を支援する人々の最も重視すべきことであることを認識し、ともに住みやすいまちを作っていく活動が協議会の特徴になる。

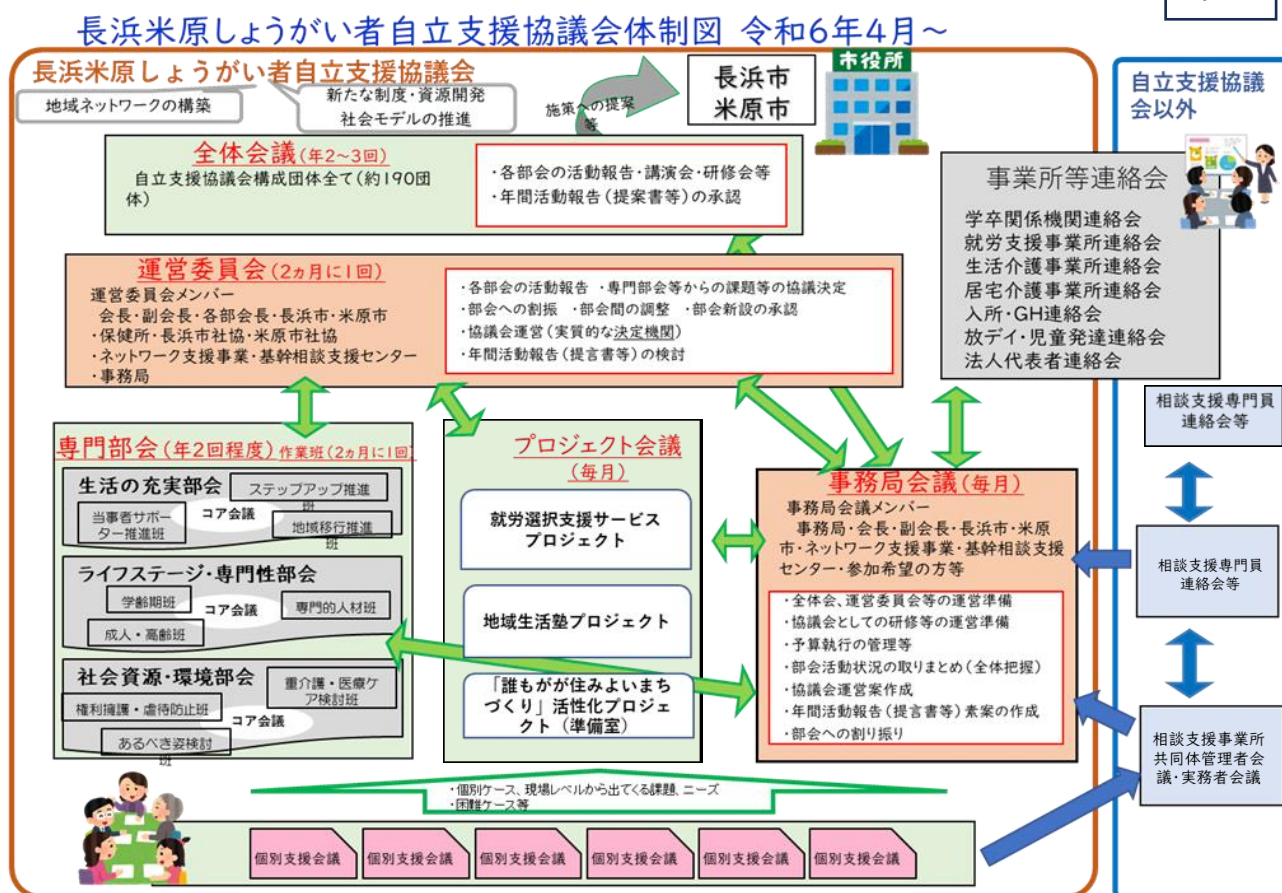
現実的には多くの課題があるが、優先順位をつけて「できることから行っていき」、「具体的な協議や取り組みを重ね、積み上げて」いくことから始めていきたい。

2 目的・役割

協議会は、この湖北地域に暮らしているしょうがいのある人たちが、住み慣れた環境で、また住みたい場所で、いきいきと暮らし、共に育ち学び働き続けられることを目指し、しょうがいのある人たちとその家族、及び教育医療労働福祉その他携わる関係者が一緒になり課題を整理・協議して、解決していくものとする。そして、それを達成していくために、障害者権利条約や障害者基本法をベースとした、湖北地域全体で包括するような社会モデルのシステム・施策を立案し、推進していくことを目的とする。

3 組織構成図

表1



4 令和6年度の取り組み方針

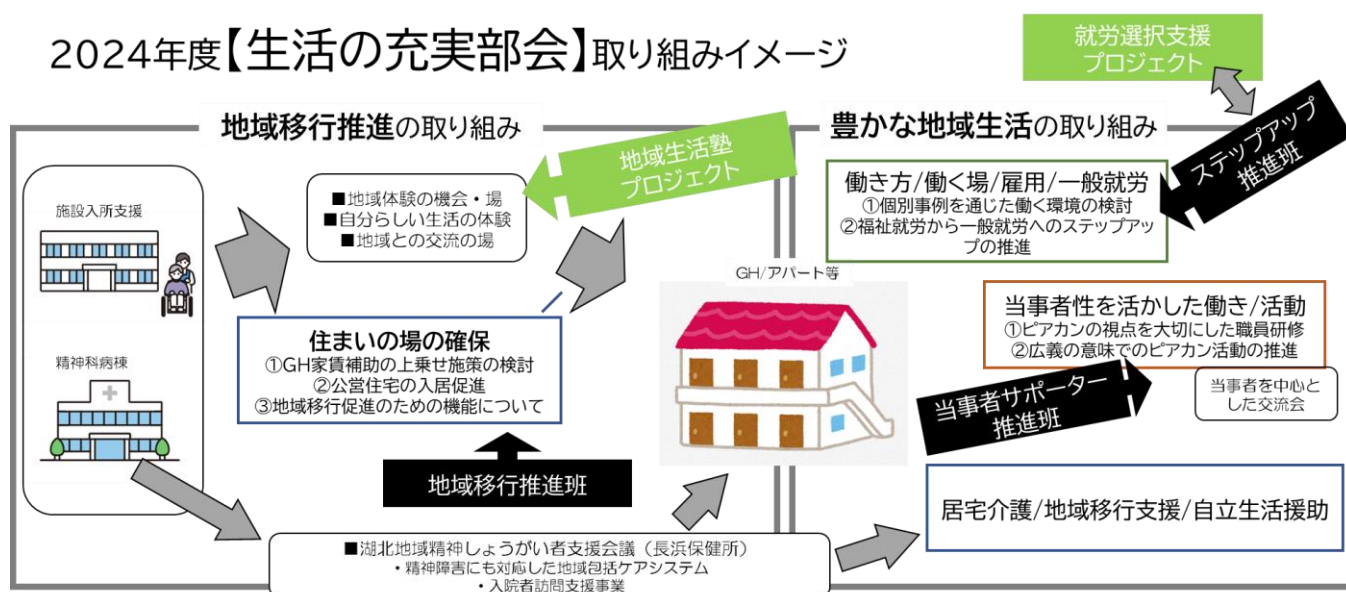
- 3つの専門部会を課題ごとに3つの作業班に分け、令和5年度から継続する形で協議・取組みを実施。
- 就労選択支援サービスプロジェクトについては、令和5年度に国のモデル事業を受諾した事業所を中心に圏域の枠組みについて協議を実施。
- 地域生活塾プロジェクトについては、しょうがい当事者のエンパワメントを高める、地域生活塾を通してさまざまな体験を積み、しょうがい当事者が地域生活(実家からアパートへ、入所施設からGHへの移行を目指し、自分の人生を主体的に送れることを目指し、プログラムを計画する。プログラムを実施するにあたり、協議会の中の取組みでは人員・責任等限界があるため、地域生活塾が持続可能なものとするための仕組みづくりを検討。
- 「誰もが住みよいまちづくり」活性化プロジェクト(仮称)(準備室:事務局)⇒4/15曳山祭り等圏域で開催されるイベントにおいて、福祉サービス事業所で制作・製造している商品を販売。また、販売等でのやりとりを通じて、一般市民への啓発活動として実施。

※各専門部会等の検討項目は、下記表2、3、4を参照。

- 協議会の活動を見える化し積極的に発信(かわら版の発行、年間スケジュールの決定、ホームページの活用、会議録の掲載等)

表 2

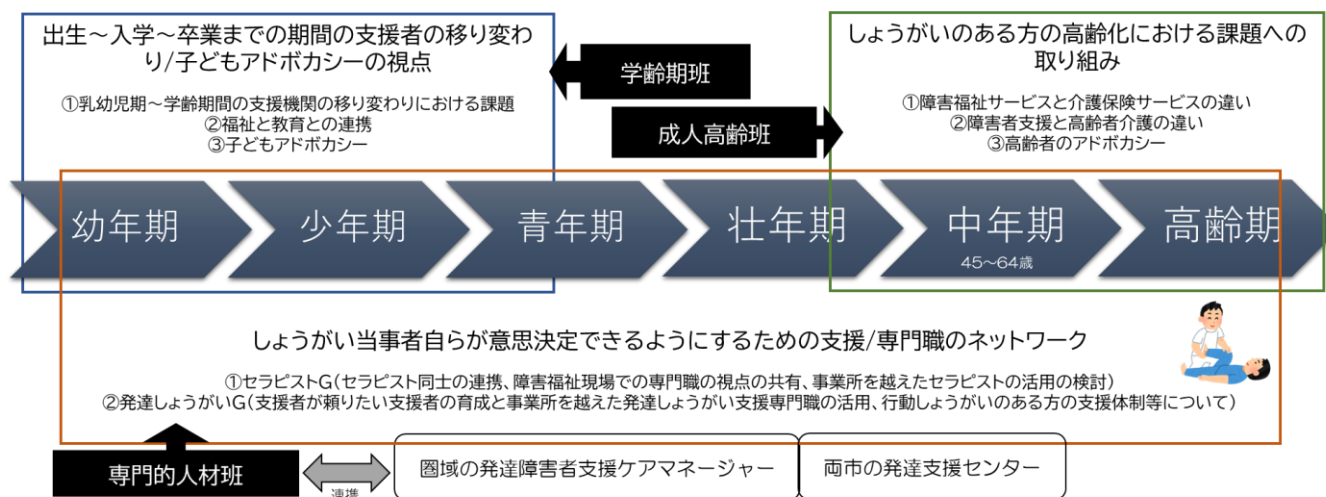
2024年度【生活の充実部会】取り組みイメージ



ステップアップ推進班：働きたいところで働ける環境の検討。就労継続A型/B型から一般就労への推進を検討。
 当事者サポーター推進班：しょうがい当事者を支えるサポーター（ピアコン/当事者性を活かした活動）の活躍の場の検討
 地域移行推進班：地域移行の壁となる主に住まいの場の金銭面に対する施策の検討。

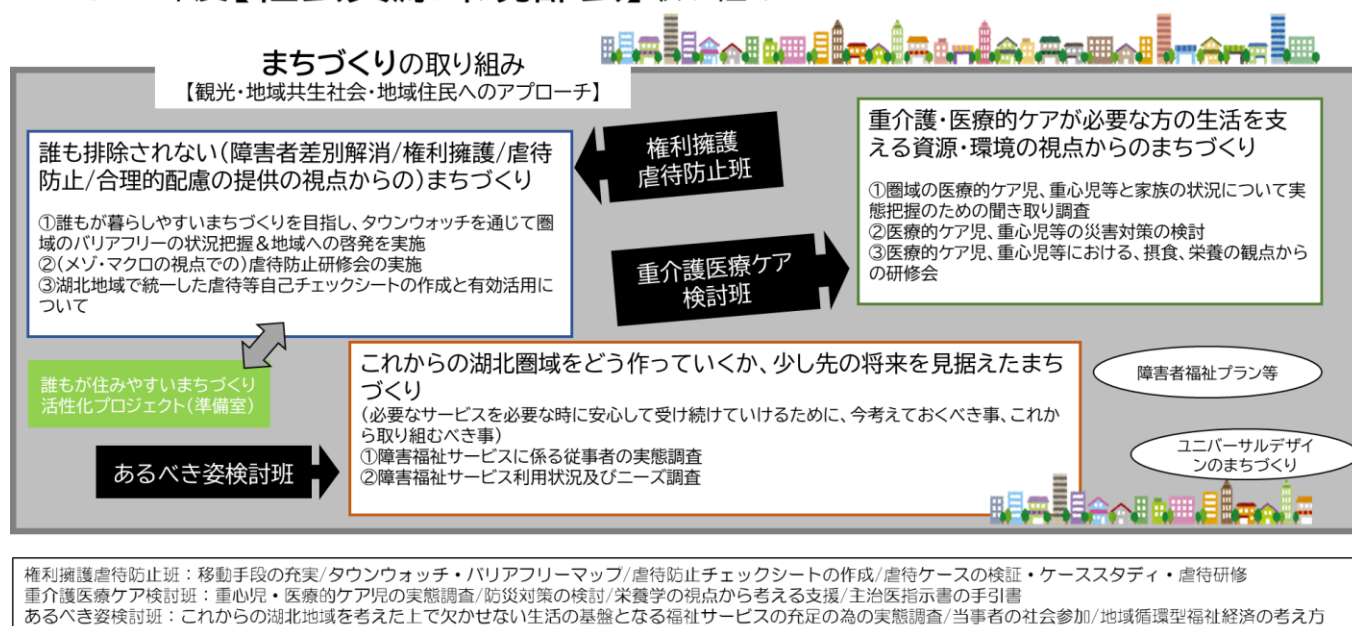
表 3

2024年度【ライフステージ専門性部会】取り組みイメージ



学齢期班：子どもアドボカシーの視点【乳幼児期～学齢期の関係機関の主導役、サービス調整/家族支援（子育て支援、ペアレントメンター）/進路場面での合理的配慮】
 専門的人材班：セラピストG【「PT」「OT」「ST」等のセラピスト同士の連携、福祉現場での専門職の視点の共有、事業所を越えた人材の活用の検討】
 発達しょうがいG【支援者が頼りたい支援者の育成と事業所を越えた専門職の活用/行動しょうがいのある方の受け止め、環境整備や人的配置における加算等の検討】
 成人高年齢班：しょうがいのある方の高齢化における課題への取り組み

2024年度【社会資源環境部会】取り組みイメージ



Ⅱ 令和6年度自立支援協議会事務局機能（事務局会議/運営委員会）

Ⅰ 事務局会議

■構成メンバー

会長：松本正志（CIL だんない）

副会長：4月～7月木村徹（長浜市視覚障害者協会）、8月～3月美濃部裕道（CIL だんない）

しょうがい児者地域生活支援ネットワーク事業：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）

しょうがい当事者代表：美濃部裕道（CIL だんない）

基幹相談支援センター：宮川和彦（湖北基幹相談支援センターふらっと）

行政（長浜市）：片山理絵/川瀬雄太（長浜市健康福祉部しょうがい福祉課）

行政（米原市）：上野高裕/宮元尚義（米原市くらし支援部障がい福祉課）

事務局：喜田知之/岸田美紀（湖北基幹相談支援センターふらっと）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月3日 13:30～14:45	長浜まちづくりセンター3A 会議室	13
第2回	5月1日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター2B 会議室	11
第3回	6月5日 13:30～15:05	長浜まちづくりセンター3A 会議室	11
第4回	7月3日 13:30～14:30	長浜まちづくりセンター3A 会議室	8
第5回	8月7日 13:30～14:55	長浜まちづくりセンター3A 会議室	9
第6回	9月4日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター3A 会議室	10

第7回	10月2日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター3A 会議室	9
第8回	11月6日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター3A 会議室	8
第9回	12月4日 13:30～15:15	長浜まちづくりセンター3A 会議室	11
第10回	1月8日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター1C 会議室	10
第11回	2月5日 13:30～14:45	長浜まちづくりセンター3A 会議室	9
第12回	3月5日 13:40～15:00	長浜まちづくりセンター3A 会議室	10

2 運営委員会

■構成メンバー

会長：松本正志（CIL だんない）

副会長：4月～7月木村徹（長浜市視覚障害者協会）、8月～3月美濃部裕道（CIL だんない）

しょうがい児者地域生活支援ネットワーク事業：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）

しょうがい当事者代表：美濃部裕道（CIL だんない）

生活の充実部会長：西山和秀（湖北タウンホーム）

ライフステージ専門性部会長：川寄誠一（湖北相談処すだち）

社会資源環境部会長：河井孝典（重症心身障害者通所施設えがお）

地域生活塾プロジェクト座長：野寺英里香（湖北相談処すだち）

就労選択支援サービスプロジェクト座長：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）

基幹相談支援センター：宮川和彦（湖北基幹相談支援センターふらっと）

湖北健康福祉事務所：野中梓（長浜保健所地域保健福祉係）

長浜市社会福祉協議会：葛川豊（長浜市社会福祉協議会相談支援課）

米原市社会福祉協議会：田中雄一（米原市社会福祉協議会相談支援課）

行政（長浜市）：小寄多代（長浜市健康福祉部しょうがい福祉課）

行政（米原市）：石河輝男（米原市くらし支援部障がい福祉課）

事務局：喜田知之/岸田美紀（湖北基幹相談支援センターふらっと）



■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月17日 13:30~14:50	長浜まちづくりセンターIC会議室	11
第2回	6月19日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンターIC会議室	13
第3回	8月21日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	16
第4回	10月16日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	13
第5回	12月18日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター多目的ホール	13
第6回	2月19日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	12

3 長浜市長および米原市長へ令和5年度活動報告書の提出

■目的 令和5年度の協議会の活動報告書を両市長へ手渡す機会を通じて、両市長に協議会の活動を知ってもらうこと、圏域の課題について今後も市と連携し、解決に向けた取組をしていくことを確認する機会とした。

■長浜市長へ報告

日時:令和6年6月5日(水) 10:00~10:30 場所:長浜市役所 4階 市長応接室

参加者:協議会 会長:松本正志(CIL だんない) 副会長:木村徹(長浜市視覚障害者協会)

事務局メンバー:美濃部裕道(CIL だんない)、鍵弥寿彦(相談支援事業所ピットイン)

ライフステージ専門性部会長:川寄誠一(湖北相談処すだち)、人材交流・人材確保プロジェクト会議座長:宮川和彦(湖北相談支援センターふらっと)、事務局:喜田知之/岸田美紀

長浜市長 活動報告概要

令和5年度 長浜米原しょうがい者自立支援協議会活動報告(概要版)

1.役割・機能・目的

→裏面(協議会の役割・機能)参照

■(長浜米原しょうがい者自立支援協議会設置要綱第3条 目的)

協議会は、この湖北地域に暮らしているしょうがいのある人たちが、住み慣れた環境で、また住みたい場所で、いきいきと暮らし、共に育ち学び動き続けられることを目指し、しょうがいのある人たちとその家族、及び教育医療労働福祉その他関係者が一緒に課題を整理・協議して、解決していくものとする。そして、それを達成していくために、障害者権利条約や障害者基本法をベースとした、湖北地域全体で包括するような社会モデルのシステム・施策を立案し、推進していくことを目的とする。

3.令和5年度の重点取組

■社会資源マップ作成プロジェクト会議

新たに「障害福祉サービスを利用したい」という方のために、湖北圏域独自の視覚的に解かりやすい冊子「社会資源マップ(障害福祉サービス事業所一覧)」を作成する。⇒社会資源マップ(障害福祉サービス事業所一覧)の完成

■人材確保・人材交流プロジェクト会議

福祉の仕事が社会的に認知・評価され、若い世代を中心に魅力ある職業として選択されるきっかけとなるよう「福祉業務及び湖北地域の魅力発信の取組」を実施し、福祉職のイメージの向上、理解の促進により、人材確保・定着の促進を図る。⇒短編映画「笑顔のデカウ」完成

障害者総合支援法89条の3
「地方公共団体は、単独または共同して、障害者等への支援の体制の整備を図るため、関係機関、関係団体並びに障害者等及びその家族並びに障害者等の福祉、医療、教育または雇用に関連する職務に従事する者その他の関係者により構成される協議会を置くように努めなければならない。」

2.組織構成図

4.専門部会の取り組み報告

■生活の充実部会(テーマ:豊かな暮らし)

○ステップアップ推進班
→福祉的就労から一般就労など、「働くこと」を中心にステップアップを推進するための課題について検討

○当事者サポーター推進班
→しょうがい当事者の地域での生活を継続、さらに豊かにするための体験、経験の場づくりの検討

○地域移行推進班
→入所施設、医療機関からのグループホームやアパート等での暮らしへの移行を推進するための検討

⇒①働くための環境整備(公共交通機関)と柔軟な雇用体系の検討。②豊かな地域生活の体験と具体的なイメージづくりのための社会資源としての「地域生活塾」の必要性。③地域移行のための住宅の確保、金銭的な補助、地域の受け入れ体制(こころのバリアフリー)の取組。

■ライフステージ専門性部会(テーマ:人・制度作り)

○学齢期班
→乳幼児期～学齢期における支援機関の役割と「こどもアドボカシー」の視点の重要性について検討

○専門的人材班
→支援者が頼りたい支援者の育成と専門的人材の事業所を越えた活用について検討

○成人高齢班
→強度行動しょうがい支援の体制整備と高齢しょうがい者支援についての検討

⇒①乳幼児期～学齢期に関しては関係機関が多岐に渡るが、その中心は家族であり、家族に任されている。継続的に家族支援(伴走)ができる人が必要。②発達しょうがい児者支援の専門的人材の不足。③行動しょうがいのある方の圏域内での受け止めについて整備が必要。④教育、介護保険との連携協力が必要。

■社会資源環境部会(テーマ:まちづくり)

○権利擁護虐待防止班
→ソーシャルアクション(長浜きもの大園遊会への参加)、障害者差別解消・権利擁護の推進のためのバリアフリーマップの作成の検討

○重介護医療ケア検討班
→医療的ケア児者、重介護の必要な方の実態把握と個別ケースにおける災害対策について検討

○あるべき姿検討班
→人口減に伴う労働人口の減少が進む中で、いまなにができるか。また、地域循環型の福祉経済という考えのもと、地域と福祉の連動について検討。

⇒①ユニバーサルデザインのまちづくりについて連携協力。②重介護、医療的ケアのある方の支援(住む場所、福祉サービス、防災対策)について更なる検討が必要。③今後の「市」のあり方について連動が必要。

5.実績・参画述べ人数

■会議等実施数⇒127回以上 ■参画述べ人数⇒1987人以上

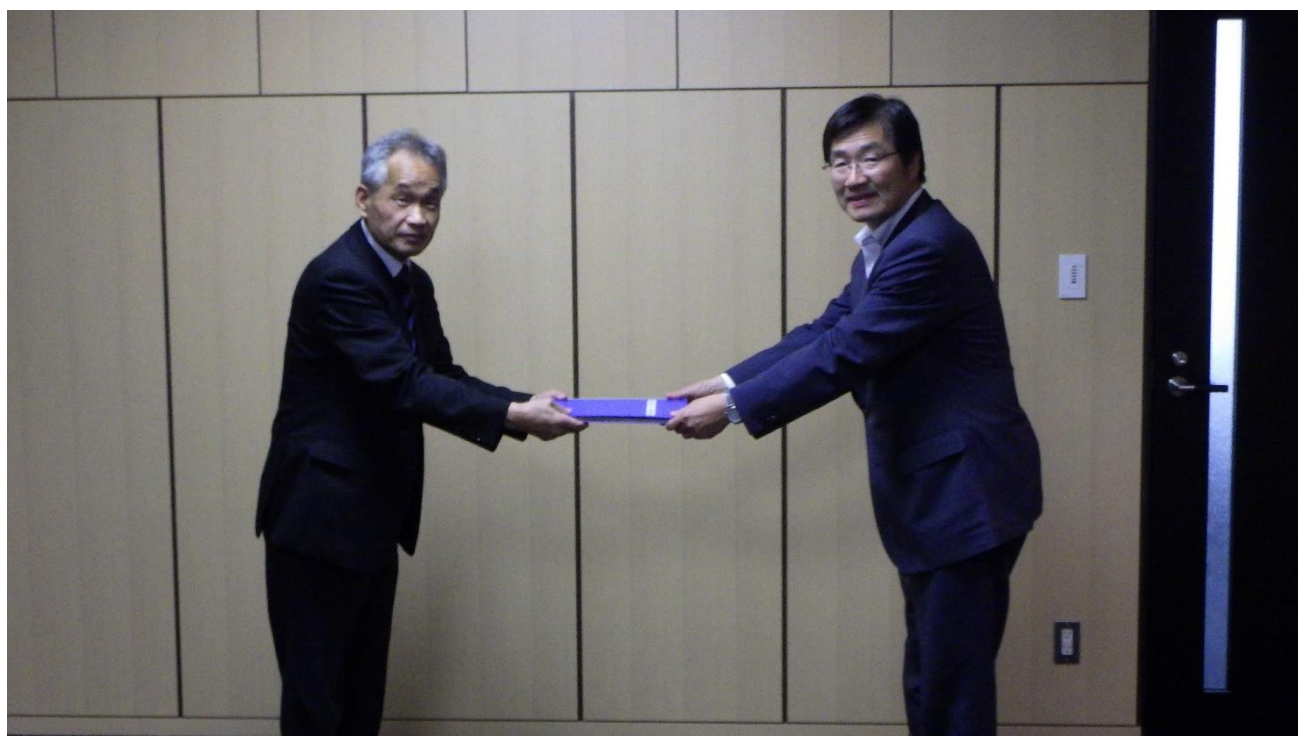
6.課題の提起・今後の取り組み

■社会資源マップ(障害福祉サービス事業所一覧)の定期更新＆ながはまマップ等との連動

■社会資源としての「地域生活塾」の事業化等に向けた協働

■就労選択支援サービスの運用に向けた圏域の体制整備について協働

長浜市長へ報告書提出の様子



■米原市長へ報告

日時:令和6年7月3日(水)16:00~16:30 場所:米原市役所 4階 市長応接室

参加者:協議会 会長:松本正志(CIL だんない) 事務局メンバー:美濃部裕道(CIL だんない)、
鍵弥寿彦(相談支援事業所ピットイン)、人材交流・人材確保プロジェクト会議座長:宮川和彦(湖北相談支援センターふらっと)、事務局:喜田知之/岸田美紀

令和5年度 長浜米原しょうがい者自立支援協議会活動報告(概要版)

1.役割・機能・目的 →裏面(協議会の役割・機能)参照

■(長浜米原しょうがい者自立支援協議会設置要綱第3条 目的)
協議会は、この湖北地域に暮らしているしょうがいのある人たちが、住み慣れた環境で、また住みたい場所で、いきいきと暮らし、共に育ち学び働き続けられることを目指し、しょうがいのある人たちとその家族、及び教育医療労働福祉その他携わる関係者が一緒に課題を整理・協議して、解決していくものとする。そして、それを達成していくために、障害者権利条約や障害者基本法をベースとして、湖北地域全体で包括するような社会モデルのシステム・施策を立案し、推進していくことを目的とする。

3.令和5年度の重点取組

■社会資源マップ作成プロジェクト会議

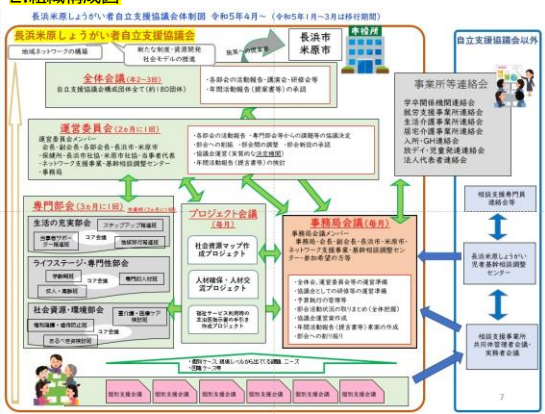
新たに「障害福祉サービスを利用したい」という方のために、湖北圏域独自の視覚的に解かりやすい冊子「社会資源マップ(障害福祉サービス事業所一覧)」を作成する。⇒社会資源マップ(障害福祉サービス事業所一覧)の完成

■人材確保・人材交流プロジェクト会議

福祉の仕事が社会的に認知・評価され、若い世代を中心に魅力ある職業として選択されるきっかけとなるよう「福祉業務及び湖北地域の魅力発信の取組」を実施し、福祉職のイメージや社会的評価の向上、理解の促進により、人材確保・定着の促進を図る。⇒短編映画「笑顔のチカラ」完成

障害者総合支援法89条の3
「地方公共団体は、単独または共同して、障害者等への支援の体制の整備を図るため、関係機関、関係団体並びに障害者等及びその家族並びに障害者等の福祉、医療、教育または雇用に関連する職務に従事する者その他の関係者により構成される協議会を置くように努めなければならない。

2.組織構成図



5.実績・参画述べ人数 ■会議等実施数=127回以上 ■参画述べ人数=1987人以上

6.課題の提起・今後の取組み

- 社会資源マップ(障害福祉サービス事業所一覧)の定期更新＆ながはまっぴぐ等との連動
- 社会資源としての「地域生活塾」の事業化等に向けた協働
- 就労選択支援サービスの運用に向けた圏域の体制整備について協働

4.専門部会の取り組み報告

■生活の充実部会(テーマ:豊かな暮らし)

- ステップアップ推進班
→福祉的就労から一般就労など、「働くこと」を中心にステップアップを推進するための課題について検討
- 当事者サポーター推進班
→しょうがい当事者の地域での生活を継続、さらに豊かにするための体験、経験の場づくりの検討
- 地域移行推進班
→入所施設、医療機関からのグループホームやアパート等での暮らしへの移行を推進するための検討
- ⇒働くための環境整備(公共交通機関)と柔軟な雇用体系の検討。②豊かな地域生活の体験と具体的なイメージづくりの社会資源としての「地域生活塾」の必要性。③地域移行のための住宅の確保、金銭的な補助、地域の受け入れ体制(こころのバリアフリー)の取組。

■ライフステージ専門部会(テーマ:人・制度作り)

- 学齢期班
→乳幼児期～学齢期における支援機関の役割と「こどもアドボカシー」の視点の重要性について検討
- 専門的人材班
→支援者が頼りたい支援者の育成と専門的人材の事業所を越えた活用について検討
- 成人高齢班
→強度行動しょうがい支援の体制整備と高齢しょうがい者支援についての検討
- ⇒①乳幼児期～学齢期に関しては関係機関が多岐に渡るが、その中心は家族であり、家族に任されている。継続的に家族支援(伴走)ができる人が必要。②発達しょうがい児者支援の専門的人材の不足。③行動しょうがいのある方の圏域内での受け止めについて整備が必要。④教育、介護保険との連携協力が必要。

■社会資源環境部会(テーマ:まちづくり)

- 権利擁護虐待防止班
→ソーシャルアクション(長浜きもの大園遊会への参加)、障害者差別解消・権利擁護の推進のためのバリアフリーマップの作成の検討
- 重介護医療ケア検討班
→医療的ケア児者、重介護の必要な方の実態把握と個別ケースにおける災害対策について検討
- あるべき姿検討班
→人口減に伴う労働人口の減少が進む中で、いまにができるか。また、地域循環型の福祉経済という考えもの、地域と福祉の連動について検討。
- ⇒①ユニバーサルデザインのまちづくりについて連携協力。②重介護、医療的ケアのある方の支援(住み場所、福祉サービス、防災対策)について更なる検討が必要。③今後の「市」のあり方について連動が必要。

米原市長へ報告書提出の様子





4. かわら版の発行

協議会の活動を積極的に発信するため、昨年度から引き続いてかわら版を年3回発行し、構成団体等へ送付した。

<かわら版 VOL.4> (R6.7月発行)

ながはま いばら
長浜米原しょうがい者自立支援協議会

かわら版

vol. 4

発行 長浜米原しょうがい者自立支援協議会
事務局：湖北農林試験センターからつと
長浜市湖北町遠東 1860 (湖北福祉ステーション内) 電話：0749-78-2141 FAX：0749-78-2212
kikanhouse@nagahama-shakyo.or.jp ホームページ <https://www.kohoku-kikan.jp/>

vol.5は10月中旬発行予定

令和5年度第2回全体会が開催されました

・開催日時：令和6年3月25日(月) 13:00～15:30
・開催場所：長浜まちづくりセンター(さざなみタウン)多目的ホール
・内容：令和5年度各分会・プロジェクト会議の活動報告、成果発表
自立支援協議会アンケートの結果報告 等

当日は60名の参加があり、熱心に報告等を聞かれていました。

令和6年度 専門部会・プロジェクト

生活の充実部会		テーマ：豊かな暮らし
ステップアップ推進班 ・巡回ケースを通じて、就労A/B型から一般就労の推進を検討	当事者サポーター推進班 ・当事者を支えるサポーター(ピアカン等)の活躍の場の設定	地域移行推進班 ・地域移行の取組となる生涯圏に対する施策の検討 ・個別ケースを通じて、圏域として地域移行を推進する取組み

ライフステージ専門性部会		テーマ：人・制度づくり
学齢期班 ●こどもアドボカシーの視点 ・乳幼児期～学齢期の関係機関の主導役、サービス調整 ・家族支援(子育て支援、ペアレントメンター) ・通達場での合理的配慮	専門的人材班 セラピストG ・[PT][OT][ST]等のセラピスト同士の連携、福祉現場での専門職の役割の共有、事業所を越えた人材の活用 発達しょうがいG ・中核的人材の育成と事業所を越えた専門職の活用 ・行動しょうがいの方の受け止めについて、職後支援や人的配慮における加算等の検討	成人高齢班 ・しょうがいのある方の高齢化における課題への取り組み

社会資源環境部会			テーマ：まちづくり
権利擁護虐待防止班 ・移動手段の充実 ・タウンウォッチ/バリアフリーマップ ・虐待防止自己チェックシートの作成 ・虐待ケースの検証/ケーススタディ/虐待研修	重症医療ケア検討班 ・重心児/医療的ケアの実態調査 ・防災対策の検討 ・栄養学の視点から考える支援 ・主治医指示書の手引き作成	あるべき家検討班 ・これからの湖北地域を考えた上で欠かさない生活の基盤となる福祉サービスの充足のための実態調査 ・当事者の社会参加 ・地域経済型福祉経済という考え方	

人権確保・人材交流プロジェクト

短編映画「笑顔のチカラ」を制作・完成

若い世代やしょうがい福祉について興味を持っていない一般の方などに対して、福祉の仕事のイメージ向上や魅力ある職業として将来の進路選択のきっかけになることを目標にプロジェクトメンバーで脚本・出演、自立支援協議会構成団体の有志の皆さんにもダンスにご協力いただき、制作しました。
湖北圏域のしょうがい福祉の良さがあふれる作品になっていますので、ぜひご覧ください。

短編映画「笑顔のチカラ」を観る→

社会資源マップ作成プロジェクト

社会資源マップ作成プロジェクトにおいて、湖北圏域のしょうがい福祉サービス事業所の強みや特徴、位置関係などが視覚的にわかる冊子を作成いたしました。

令和5年度版作成

ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。
ぜひ、様々な場面でご活用ください。冊子が必要な場合は事務局までご連絡ください。
詳しくは、ホームページをご覧ください。 <https://www.kohoku-kikan.jp/mappro>

プロジェクト会議

令和6年10月より運用される新たなサービス「就労選択支援サービス」の圏域内の円滑な運用に向けて、関係機関がどのような役割を担っていくか等の枠組みを決定し、圏域に周知を行う。

当事者サポーター推進班で実施してきた「地域生活塾」の取組みを圏域に必要な資源として位置づけし、今後も継続的に実施していくための手立て等を検討する。必要に応じ両市に対し事業化への提案等を行う。

令和7年10月より運用される新たなサービス「就労選択支援サービス」の圏域内の円滑な運用に向けて、関係機関がどのような役割を担っていくか等の枠組みを決定し、圏域に周知を行う。

当事者サポーター推進班で実施してきた「地域生活塾」の取組みを圏域に必要な資源として位置づけし、今後も継続的に実施していくための手立て等を検討する。必要に応じ両市に対し事業化への提案等を行う。

今年度の取り組み

令和6年度曳山まつり出店

4月15日(月)の午前10時～午後2時、曳山まつりの中心場所である長浜八幡宮境内において、しょうがいのある方が制作製造した商品等を販売しました。市民の方へ直接販売することで、交流や社会参加の機会とし、しょうがいのある方たちへの理解啓発、福祉のまちづくりを推進する一助になることを目指しています。



新しくのぼり旗を作成し、これからの活動も発信していきます。

権利確立・虐待防止班のタウンウォッチ

誰もが利用しやすいお店づくりに関する工夫点等を知る、または考える機会とするために、実際に班員が長浜市内の飲食店を訪問しました。普段気づけなかった新たな発見や学びがありました。ご協力いただいた店舗の皆さま、ありがとうございます。

・実施日：令和6年5月17日、20日、22日
・方法：班員が3つの班に分かれて徒歩で市内を巡動



お知らせ

「会議録閲覧方法」を変更いたしました

今年度から自立支援協議会のホームページから各部会・作業班・プロジェクト会議等の会議録を見ることができるようになりました。

現在、部会に参加されている方はもちろん、どんな内容も話し合っているのが興味ある方はぜひご覧ください。閲覧方法は事務局までお問い合わせください。

メール：kikanhousei@nagahama-shakyo.or.jp 電話：0749-78-2144/080-8507-5930

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 活動予定カレンダー

2024 7月						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
30	01	02	03	04	05	06
			1330事務局会議②	1400米原市会議員報告①		
07	08	09	10	11	12	13
				1315ボランティア協議会①	1315福祉関係者会議①(1315)	1330老人高齢者①
14	15	16	17	18	19	20
		1330福祉関係者会議②	1330福祉関係者会議③	1330福祉関係者会議④		
21	22	23	24	25	26	27
		1330専門人材報告①	1330の夢や希望を語り合う協議会①	1330の夢や希望を語り合う協議会②	1330福祉関係者会議⑤	
28	29	30	31			
				1315福祉関係者会議⑥		
04	05					
※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。 ※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。 ※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。						
2024 8月						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
28	29	30	31	01	02	03
				1315事務局会議②	1315福祉関係者会議⑥(1315)	
04	05	06	07	08	09	10
			1315福祉関係者会議⑦	1315福祉関係者会議⑧	1315福祉関係者会議⑨	
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
			1330福祉関係者会議⑩	1330福祉関係者会議⑪	1330福祉関係者会議⑫	
25	26	27	28	29	30	31
		1330の夢や希望を語り合う協議会③	1330の夢や希望を語り合う協議会④	1330福祉関係者会議⑬		
01	02					
※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。 ※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。 ※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。						
2024 9月						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
01	02	03	04	05	06	07
			1330事務局会議③			
08	09	10	11	12	13	14
			1315ボランティア協議会②	1315福祉関係者会議⑩(1315)	1330老人高齢者②	
15	16	17	18	19	20	21
		1330福祉関係者会議⑪	1330福祉関係者会議⑫	1330福祉関係者会議⑬	1300全体会議	
22	23	24	25	26	27	28
		1330専門人材報告②	1330の夢や希望を語り合う協議会⑤	1330福祉関係者会議⑭		
29	30	01	02	03	04	05
06	07					
※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。 ※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。 ※：協議会に出席される方は必ず事前に参加費を申し込む必要があります。協議会の場内には必ず参加費の受付があります。						

6月10日時点のカレンダーです。随時、更新していきますので最新情報はHPよりご確認ください。

自立支援協議会についての予定およびお知らせはホームページに掲載しております。

ぜひホームページをご確認ください。

<https://www.kohoku-kikan.jp/jiritsu>



<かわら版 VOL.5> (R6.10月発行)

長浜米原しょうがい者自立支援協議会

かわら版 vol.5

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 発行
長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局：湖北こころ支援センターふらっと
長浜市湖北町遠末1860(湖北福祉ステーション内) 電話：0749-78-2144 FAX: 0749-78-2212
kikanhousei@nagahama-shakyo.or.jp ホームページ <https://www.kohoku-kikan.jp/>

vol.5は2月中旬発行予定



令和6年度第1回全体会議が開催されました

・日 時：令和6年9月20日(金) 13:15～15:40
・場 所：長浜市役所多目的ルーム
・内 容：プロジェクト会議の活動報告
新事業所紹介(R6.3月～8月までに開所)
映画「大空へはばたこうー自立への挑戦」上映会 等
・参加者数：66名



当日の資料はホームページからご確認ください。



プロジェクト会議活動報告



新事業所紹介



映画上映

全体会議
アンケート内容
プロジェクト会議の活動や新しい事業所のことがわかり、とても学びが深かったです。

上映会
アンケート内容
・知的障害のある方がやりたことに挑戦されている姿が印象的でした。
・地域移行の考え方について、とても勉強になりました。湖北にも、このような取り組みを取り入れていけたらと思います。

令和5年度自立支援協議会活動報告書を長浜市長および米原市長へ手渡しました

長浜市長との面談

・日 時：令和6年6月5日 10:00～
・メンバー：会長、副会長、事務局メンバー、令和5年度部会長、プロジェクト会議座長、事務局



米原市長との面談

・日 時：令和6年7月3日 16:00～
・メンバー：会長、事務局メンバー、令和5年度プロジェクト会議座長、事務局

令和5年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会活動報告書を両市長に手渡しました。来年度以降も1年間の成果を報告し、両市長に地域の課題やニーズ、新たな障害福祉施策等について考えていただく機会にしたいと思います。

高島市自立支援協議会全体会で湖北での取り組みを報告しました

・日 時：令和6年5月28日 14:00～
・場 所：高島市役所
・テ マ：長浜米原しょうがい者自立支援協議会の取り組み報告



地域生活塾

プロジェクト会議において、 地域生活塾 卒業生交流会を開催

・日時・場所
①令和6年6月15日(土) 湖北まちづくりセンター
②令和6年7月20日(土) ささなみタウン



地域生活塾で学んだことを参加者みなで振り返りました。

イベント

仮「誰もが住みよいまちづくり」 活性化プロジェクト会議で、 びわのイベントに参加

・日時・場所
令和6年9月22日(日)
びわ文化学習センター(リユースプラザ)

事業所等で製作・製造している商品等の紹介、販売を通して地域者との交流や周知啓発を行いました。



長浜市長も来訪、購入いただきました。

あるべき姿検討班、 重介護・医療ケア検討班合同で 研修会の開催

・日時・場所
令和6年8月22日(木)
場所：神前まちづくりセンター
テーマ：「社会資源調査における基本的な視点」
講師：金沢学院大学 横川健祐氏

今回の学びを今後の担活動に活かされたいと思います。



研修会の様子



長浜市長も来訪、購入いただきました。

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 活動予定カレンダー

2024 11月						
27	28	29	30	31	01	02
03	04	05	06	07	08	09
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
01	02	03	04	05	06	07
08	09	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	01	02	03	04
05	06	07	08	09	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	01
02	03	04	05	06	07	08
09	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	01	02	03	04	05

10月10日時点のカレンダーです。掲載、更新していますので最新情報はホームページよりご確認ください。
自立支援協議会についての予定およびお知らせはホームページに掲載しております。
ぜひホームページをご確認ください。 <https://www.kohoku-kikan.jp/jiritu>

くかわら版VOL.6> (R7.3月発行)

長浜米原しょうがい者自立支援協議会

かわら版 vol.6

長浜米原しょうがい者自立支援協議会

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局：湖北米原福祉センターから
長浜市湖北米原1860(湖北福祉ステーション内) 電話：0749-78-2144 FAX：0749-78-2212
kikanchousei@nagahama-shakyo.or.jp ホームページ <https://www.kohoku-kikan.jp/>

vol.7は夏研修予定



Kohoku Kikan Flat

今年度の取り組み状況の紹介

今年度、各作業班、プロジェクト会議において協議や研修会の開催等活発に取り組みました。その一部を紹介します。

生活の充実部会

ステップアップ推進班

会社見学会・研修会連続講座

第1回 研修会

・日時：令和6年11月7日(木) 13:00～15:00
・場所：長浜まちづくりセンター
・内容：はたらく、くらし応援センターからの講義のあと、参加者と見学会に向けて質問事項や見ておきたいポイントなどを話し合いました。

第2回 見学会

・日時：令和6年11月14日(木) 13:00～15:00
・場所：アイリスオーヤマ株式会社 米原工場
・内容：会社説明のあと、実際に職場を見学。第1回目の研修会でまとめた質問事項などを元に質疑応答をしました。



会社説明の様子

当事者サポーター推進班

ピアカンの視点から学ぶ、訊くことから始める意思決定支援研修

・日時：令和6年11月8日(金) 13:30～15:30
・場所：長浜まちづくりセンター多目的ホール
・講師：美濃部 裕通氏
・対象：障害福祉サービス事業所職員、興味のある方
・内容：①ピアカウンセリングデモンストラーション
②ピアカウンセリングについて
③カウンセリング体験

参加者アンケートより

・カウンセリング体験など普段できないことができた。よかった。
・少人数でじっくり取り組めた。よかった。



研修会の様子

地域移行推進班

地域交流施設(ほっふる)の施設見学

地域交流施設ほっふるが移転され、見学会を開催。
・日時：令和7年2月3日(月) 10:30～11:30
・場所：ほっふる(長浜市湖北町海老江1073)



施設説明の様子

施設内見学の様子

ライフステージ専門性部会

学齢期班

長浜市・米原市の乳幼児期の相談支援体制の課題等について KJ法を用いて整理



整理した結果を共有している様子



課題等を整理したもの

専門人材班

セラピストG



協議の内容をホワイトボードに整理

発達しょうがいG



協議の内容をホワイトボードに整理

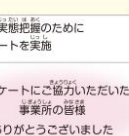
成人高齢班

ライフステージ専門性部会 成人高齢班



協議の内容をホワイトボードに整理

地域の実態把握のためにアンケートを実施



協議の内容をホワイトボードに整理

アンケートにご協力いただいた事業所の皆様ありがとうございました

しゃがい し げん かん しょう がい
社会資源環境部会

現地視察研修

作業班での協議や取り組みにいかすため他圏域の事例を現地視察しました。

- ・日程：令和7年1月20日(月) 8:30～17:30
- ・参加者：9名
- ・視察先：やまなみ工房、障がい者支援センターかがやき、多機能型地域生活支援拠点 G-square



バスでの視察研修



やまなみ工房

工房内の利用者93名一人ひとりに対して、作り出す作品やこれまでの経過等の説明を受けながら視察を行いました



かがやき

電源を天井からの吊り下げ式にしていることやベッド同士がすれ違えるよう廊下を広く確保されている等、施設内の場所に工夫や配慮がされていました



G-square

G-squareは2024年5月に大津市に開設された、自閉症及び強度行動障害の状態で生活する重度知的しょうがいのある方が入居する共同生活援助(グループホーム)です。今回は、そのうち2カ所の見学を行いました



参加者アンケートより

- ・良いところは取り入れ、今後、湖北地域をよりよくしていきたい。
- ・3つの事業所見学を通して、より積極した活動を、協議会として展開する重要性を感じた。

重介護・医療ケア検討班

摂食・嚥下研修食べることは、生きること

- ・日程：令和6年10月17日(木) 14:30～16:30
- ・場所：南郷里まちづくりセンター
- ・講師：びわこ学園言語聴覚士 中谷 芽氏
- ・対象：医療・福祉・教育関係者
- ・参加者：48名



参加者アンケートより

- ・普段行っている介助を考え直す機会になりました。
- ・食事形態だけではなく、姿勢など環境の大切さを学習できました。

権利擁護・虐待防止班

タウンウォッチ 第2弾

- ・実施日：令和6年10月24日(木)
- ・タウンウォッチ先：米原駅周辺および長浜駅周辺(夕方時間帯)



駅周辺を実際に車椅子で移動している様子



タウンウォッチ開始前に班員で集合写真

虐待防止研修会

- ・日程：令和6年11月22日(金) 13:30～15:30
- ・場所：米原市コンベンションホール
- ・講師：新井在慶氏(愛知県ふいーる工房統括)
- ・参加者：47名



参加者アンケートより

- ・自分の日々の支援を振り返る、とても良い機会になりました。ありがとうございました。

Ⅲ 令和6年度プロジェクト会議活動報告

(別添書類②令和6年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会部会報告書参照)

Ⅰ 就労選択支援サービスプロジェクト会議

■目的

令和7年10月から運用が開始される新たな障害福祉サービス「就労選択支援サービス」の圏域内での適切な運用に向けての枠組みを構築するために実施した。大切にすることは、第一に当事者の方に有効に活用されるものを作っていくことであると同時に、様々な視点から検討し、支援者が無理なく運用できるものということである。今回のプロジェクトを通じ、福祉と就労、圏域を越えて連携・協力が気軽にできる、そのきっかけになることの期待も込めている。

■参画事業所等

座長：鍵弥寿彦(相談支援事業所ピットイン) 副座長：阿藤誠介(はたらき・くらし応援センターこほく)
参画：(はたらき・くらし応援センターこほく/ワークスさばてん/スマイルカレッジ/あっぷでーと/就労ネットワーク滋賀/地域若者サポートステーション/長浜養護学校/ハローワーク長浜/ジョブリード/ハグウェル/ 相談支援事業所ピットイン/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課/湖北基幹相談支援センターふらっと)

オブザーバー：奥田颯太郎（滋賀県障害福祉課）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月9日 15:15～16:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
第2回	6月13日 15:15～17:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	20
第3回	7月11日 15:15～17:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	19
第4回	8月8日 15:15～17:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	16
第5回	9月12日 15:15～17:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	18
第6回	10月10日 15:15～17:00	長浜まちづくりセンター2AB会議室	14
第7回	12月12日 15:15～16:50	長浜まちづくりセンター1C会議室	15
第8回	1月9日 15:15～17:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	16
第9回	2月13日 15:15～16:50	長浜まちづくりセンター1C会議室	12
第10回	3月13日 15:15～16:50	長浜まちづくりセンター1C会議室	16

■会議の主な流れ

1. **情報共有と現状把握:** 制度概要説明、モデル事業の報告、先進事例紹介、アンケート調査結果共有などを通じて現状を把握。他圏域の取り組みや国の動向についても情報収集を行い、湖北圏域の現状に合わせた対応を検討。
2. **課題の整理と解決策検討:** 「みどりチーム(協議会運営に関わる部分)」と「きいろチーム(就労選択支援サービスに関わる部分)」に分かれて協議を実施。各チームで出た意見や課題を整理し、具体的な解決策を検討。
3. **手引き作成:** 協議内容を基に、関係機関向けの手引きを作成中。手引きの内容については、わかりやすさ、網羅性、実用性を重視し、関係機関からの意見も反映させる。

■みどりチームの協議内容とまとめ

◎**支援等調整会議:** 主に福祉サービス未利用者等を対象に、関係機関が連携し多角的な視点から支援ニーズを把握（アセスメント）するための会議。多様な背景を持つ方の就労支援ニーズを包括的に捉えることを目指す。

- ・課題: 本人の意向が反映されにくい可能性、開催頻度や選定基準の明確化、円滑な運営のための体制構築、関係機関の役割分担、会議の情報共有方法、会議後の支援への繋ぎ方。
- ・方向性: 行政(特に障害福祉課)がセルフプランの方のサポート役となり、新規ケースや多問題ケース、長期のひきこもり、就労経験がない方等を対象。計画相談が担うべき役割を圏域（協議会）でどう担うかを検討。必要に応じて、教育機関、医療機関、関係団体等を柔軟に招集（協議会の専門部会に位置付けることを想定）。会議後、就労選択支援サービス利用だけでなく、他の福祉サービス、地域活動、ボランティア等、多様な選択肢を検討。

◎**モニタリング会議:** 就労選択支援サービス利用後の継続的な支援や関係機関との情報共有のための会議。切れ目のない支援を提供するため、関係機関が連携して継続的に支援状況を把握・共有。

- ・課題: 計画相談が見つからない場合の後追い体制の構築、会議の対象者選定基準、開催頻度、関係機関の役割分担、効果的な情報共有方法、支援内容の見直しと調整。
 - ・方向性: 計画相談がついていない方のモニタリングを実施。希望者、行政が選定した方、支援課題が生じている方等を対象に、関係機関と連携して課題解決。ステップアップ推進班を拡大し、支援等調整会議と同日に開催することで、関係機関の負担軽減と効率的な情報共有。定期的な開催を原則とし、必要に応じて開催頻度を調整。
- ◎その他: 計画相談の必要性と人員確保の課題、関係機関との連携強化、相談窓口の一元化、支援情報の共有の方法、関係者機関への周知。協議会の役割を明確化し、圏域全体で就労支援を推進するための体制整備を促進。

■きいろチームの協議内容とまとめ

◎アセスメント: 就労選択支援サービスを利用する上で、就労の可能性や課題、適性などを多角的に評価するためのアセスメントの実施。

- ・課題: 様式・作業項目・評価基準の統一、本人・家族への説明方法、就労意欲の適切な評価、アセスメント結果の活用方法、アセスメント実施者のスキルアップ、評価結果を伝える際の配慮。
- ・方向性: 圏域で統一した様式・評価基準(数字化、グラフ化)を作成。JEEDを参考に圏域独自の説明用小冊子の作成について協議(特性に応じた配慮)。本人・家族の理解と納得を深めるための丁寧な説明を心がけ、就労意欲だけでなく、生活状況、個性、強み等を多角的に評価し、結果を次の支援に繋げていくものとする。

◎ケース会議(個別・多機関連携): 個別支援計画作成のための情報共有や、関係機関との連携を図るための会議。

- ・課題: 参加機関の選定、開催頻度、情報共有方法、会議の効率化、多様なニーズへの対応。
- ・方向性: 個別ケース会議は原則本人同席。必要に応じて関係機関を柔軟に招集し、多角的な視点の導入。多機関連携会議は必要に応じて開催。情報共有ツールを活用し、効率的な情報共有と円滑な連携を目指す。

◎アセスメント結果の活用: アセスメント結果を基に、適切な就労支援サービスへの橋渡しを行う。

- ・課題: 結果を本人へ伝える方法、次の支援への橋渡し、支給決定期間を越える場合の対応。
- ・方向性: グラフ化など視覚的な表現を用いてわかりやすいものとする。社会資源情報も活用し、多様な選択肢を提供。支給決定期間を越える場合は、多機関連携による会議で今後の支援方針を検討。関係機関と連携し、切れ目のない支援を提供。

■全体のまとめ:

- ◎ 圏域全体で就労選択支援サービス利用者を支える体制づくりを目指す。関係機関が連携し、多様なニーズに対応できる体制を構築。
- ◎ 就労選択支援サービス事業所と協議会が役割分担し、計画相談が見つからない方への行政のサポートを協議会が担っていく。計画相談の充実も図る予定。
- ◎ 支援等調整会議、多機関連携会議を活用し、関係機関が連携して支援。会議運営の効率化と実効性を高めていく。

- ◎ 統一されたアセスメント、わかりやすい説明、継続的なモニタリングを実施。アセスメントツールの改善と活用促進。
- ◎ 手引きを作成し、関係機関への周知徹底を図っていく。

2 地域生活塾プロジェクト会議

■目的

当事者サポーター推進班で実施してきた取り組み「地域生活塾」を圏域に必要な資源として位置づけ、今後も継続的に実施していくための手立て等を検討し、両市へ事業化の提案等を行っていく。

■参画事業所等

座長：野寺英里香（湖北相談処すだち）

参画：（CIL だんない/障がい者相談支援センターはたる/マルチスイッチ/ふくらの森/湖北基幹相談支援センターふらっと/相談支援事業所ピットイン/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月24日 15:15～16:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	8
第2回	5月22日 15:15～16:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	8
第3回	6月26日 14:40～16:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	6
第4回	7月24日 15:00～16:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	8
第5回	8月28日 15:15～16:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	7
第6回	9月25日 15:15～16:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	7
第7回	10月23日 15:15～16:50	長浜まちづくりセンター1C会議室	10
第8回	11月27日 15:15～16:50	長浜まちづくりセンター1C会議室	9
第9回	12月17日 10:30～12:30	湖北会本部会議室	6
第10回	1月22日 15:15～17:00	湖北会本部会議室	9

■活動実績（定例会議以外の活動）

地域生活塾交流会

目的：「地域生活塾」卒塾生の交流会を開催し、その中で「地域生活塾」を通して得た効果等評価情報を収集

対象：卒塾生22人

回	日時	場所	卒塾生参加数 (人)	運営スタッフ (人)
第1回	6月15日 14:00～16:00	湖北まちづくりセンター	8	7
第2回	7月20日 14:00～16:00	長浜まちづくりセンター	8	8

■主な協議内容等（別添書類①地域生活塾プロジェクト提言書参照）

1. 湖北地域生活塾の必要性について

- ・当事者主体のニーズ：障害のある当事者が、地域で自分らしい生活を構築する上で、自己決定に

に基づき、主体的に必要な情報収集やスキルを習得する機会が極めて重要。しかし、現実には自分自身のペースで、じっくりと将来設計を考え、必要な支援サービスを吟味できる機会は不足している。家族亡き後や、予期せぬ環境変化により、突然住まいの選択を迫られるケースも多く、十分な準備期間がないまま、生活スタイルが大きく変化せざるを得ない状況が生じている。

- ・ **エンパワメントを促す学び合いの場:** 単なる情報提供に留まらず、同じ境遇にある仲間と交流し、互いにエンパワメントし合える場が必要である。目標や思いを持つ塾生同士が共に学び合い、刺激し合うことで、将来の生活に対する具体的なイメージを描き、新たな目標や自信を得られる。地域生活に向けた不安や困難を共有し、支え合うコミュニティとしての役割も期待される。
- ・ **地域資源の戦略的な活用:** グループホーム等の住まいの場の選択肢は増えつつあるものの、障害特性や個々のニーズに対応した多様な選択肢が十分に整備されているとは言い難い状況である。また、障害年金等の限られた収入に依存せざるを得ない状況では、自分らしい暮らし方を具体的にイメージし、実現に向けて行動を起こすことが難しい状況である。
- ・ **真に包摂的な共生社会の実現:** 共生社会の実現を目指す動きは加速しているものの、現実には制度の狭間や社会的な偏見など、様々な障壁が存在する。働き方改革や人手不足、リスクマネジメントの徹底など、事業所側の都合が優先される場面も少なくない。湖北地域生活塾も同様の課題に直面しており、当事者主体の視点に基づいた、真に包摂的な地域社会の実現に向けた取り組みが求められる。

2. 湖北地域生活塾が抱える課題

- ・ **脆弱な運営基盤、継続的な運営の仕組みと財源の確保:** 責任の所在が曖昧であり、運営体制が不安定になりがちである。専門的な知識やスキルを持つスタッフの確保が困難である上に、ボランティアに頼らざるを得ない状況も散見される。運営に必要な費用（会場費、教材費、講師謝礼、交通費等）も限られており、有志による持ち出しや、事業所の持ち出しに頼らざるを得ない状況も多く、安定的な運営のための財源確保が急務だと思われる。
- ・ **深刻化する人材不足、人材の確保と育成:** 福祉人材の高齢化や、異業種への人材流出などにより、湖北圏域全体で人材不足が深刻化している。地域生活塾の運営に携わる人材を確保すること自体が難しく、専門的な知識や経験を持つ人材となるとさらに困難である。経験豊富な人材の育成も課題であり、長期的な視点での人材育成計画が必要である。

3. 実効性のある提言内容

- ・ **明確な目的、自分らしい暮らし方や人生の歩み等を主体的に考える機会の提供:** 障害当事者が、自己決定に基づき、自分らしい暮らし方や人生の歩み方を主体的に考え、選択するための体験的な機会を保障する。地域生活に関する情報提供や相談支援に加え、生活スキル向上のための学習機会や、地域資源を活用した社会参加の促進等、包括的な体験の場を提供する。このような機会が当たり前提供される地域社会の実現を目指し、湖北地域生活塾を地域に根差した社会資源として確立する。
- ・ **持続可能な運営体制の構築、市単独事業としての委託費を基盤とした運営:** これまでの実績を踏まえ、令和5年度の実績をベースに、より詳細な費用概算を算出し、市単独事業としての委託費を

確保。委託費を基盤とすることで、安定的な運営体制を構築し、継続的な事業展開を可能にする。

- ・ **多様な人材の確保と活用、運営主体となる法人等の公募と、地域連携による人材プール形成:** 運営主体となる法人を公募し、運営ノウハウやリソースを持つ事業者に委託することで、専門性の高い運営体制を確立。自立支援協議会との連携を強化し、圏域の事業所職員、ボランティア、学生等を巻き込んだ人材プールを形成し、多様な人材が活躍できる機会を提供する。
- ・ **地域社会への啓発と連携、理解促進と支援体制の強化:** 湖北圏域の法人や企業等に対し、湖北地域生活塾の意義や目的を積極的に発信し、理解を深めるための啓発活動を実施。企業との連携による就労支援や、地域住民との交流イベントの開催等、地域社会全体で障害のある人を支える体制を構築する。

4. 協議会の戦略的役割

- ・ **法と理念に基づく責務、障害者の自己決定と地域共生を支援:** 障害者総合支援法、障害者権利条約に基づき、障害のある人が、誰と、どこで、どんな風に暮らしたいかを自己決定し、地域社会で自立した生活を送る権利を保障する。
- ・ **包括的な社会モデル構築の推進、地域生活塾を中核とした戦略的展開:** 湖北地域全体で包括できるような社会モデルを構築し、地域生活塾をその中核として位置づけ、地域生活支援体制の強化を図る。

5. 期待される多角的な利点

- ・ **スタッフの専門性とスキルの向上、実践的な学びと成長の機会:** 多様な専門職種やボランティアが、地域生活塾の運営に携わることで、障害に関する知識や理解を深め、実践的なスキルを習得。多角的な視点から課題解決に取り組むことで、自身の専門性を高めるだけでなく、チームワークやコミュニケーション能力も向上する。
- ・ **人材育成と確保への貢献、福祉分野への関心を喚起し次世代を育成:** 地域の若者や学生が、ボランティアとして地域生活塾に参加することで、福祉分野への関心を深め、将来的な福祉人材の確保に繋げる。ベテランスタッフから若手スタッフへの知識や経験の伝承を促進し、次世代を担う人材を育成する。
- ・ **地域社会の活性化、共生社会の実現に向けた機運醸成:** 地域住民が地域生活塾の活動に参画することで、障害のある人に対する理解を深め、共生社会の実現に向けた機運を高める。地域イベントへの参加や、地域住民との交流を促進し、地域コミュニティの活性化に貢献する。

結論:

湖北地域生活塾は、障害のある人が自分らしい人生を歩むための重要な基盤であり、地域社会全体の包容力を高めるための必要不可欠な取り組みである。持続可能な運営体制を確立し、地域全体で支え合う仕組みを構築することで、湖北地域における福祉の向上に大きく貢献する。本提言の実現に向け、関係機関・団体との連携を強化し、地域社会全体で取り組むことを強く訴える。

3.「誰もが住みやすいまちづくり」活性化プロジェクト(仮称)準備室

■目的

地域に住んでいるしょうがい当事者の方の社会参加の機会を増やすこと、およびしょうがい福祉に関する啓発活動を目的とする。

■開催方法

イベント毎に協議会構成団体に周知し、参加事業所等を募って開催

■参画事業所等

世話役:高山徹/鍵弥寿彦(相談支援事業所ピットイン)、

参画:CILだんない/Ohana/サンサン/フォー・ユー/ワークスさぼてん/ひかり園

■活動実績

イベント	日時	場所	参加数 (事業所)
長浜曳山祭り	4月15日7:00~16:30	長浜八幡宮境内一角	4
長浜市支え合いの地域 づくりシンポジウム	9月22日9:00~15:30	びわ文化学習センター(リュートプラザ)	4
環境にやさしい日フェア	3月9日9:00~15:30	びわ文化学習センター(リュートプラザ)	3

↓長浜曳山祭り



↓長浜市支え合いの地域づくりシンポジウム



↓環境にやさしい日フェア



Ⅳ 令和6年度専門部会活動報告

Ⅰ 生活の充実部会

■目的

部会のテーマ【豊かな暮らし】を実現するために、「ステップアップ推進班」「当事者サポーター推進班」「地域移行推進班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理。

■参画事業所

部会長：西山和秀（湖北タウンホーム）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/障害児者地域生活ネットワーク支援事業）

参画：（ステップアップ推進班/当事者サポーター推進班/地域移行推進班のメンバー）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
コア会議	8月2日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	5
第1回	10月30日 13:30～15:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	11

※コア会議：コアメンバー（部会長/座長）で会議内容等について打合せ

目的：各作業班の現在の協議内容や進捗状況を把握し、部会の中で協働できる部分についての検討や協議の方向性の確認等を行うため開催。

内容：各作業班座長より報告後、参加者からの質疑応答。その後、この部会のテーマである地域移行の推進にあたって、「誰が」「何をしていくことが必要か」の意見やアイデアをKJ法にて整理。

↓意見交換の様子



↓KJ法にて整理



(1) ステップアップ推進班

■検討テーマ

ステップアップ推進班の活動目的は、就労支援事業所間で連携し、情報共有や事例検討、研修などを通して、就労希望者の一般就労等への移行（ステップアップ）を促進することである。特に、就労に難しさを抱える利用者に対して、より効果的な支援を提供するためのノウハウの共有や課題解決を目指す。

■参画事業所等

座長：神田航平（ワークスさばてん）

参画：（ワークスさばてん/フォーユー/障がい者相談支援センターほたる/ピットイン/あっぷでーと/スマイルカレッジ/愛光園/長浜みなみ共同作業所/はたらき・くらし応援センターこほく/障害者支援センターそら/つどい/ひかり園・輝湖里/ワークスさかた/リアファル/友愛ハウス・ワークセンター絆/ハグウェル/Link/湖北基幹相談支援センターふらっと/米原市発達支援センター/ゆるり/長浜市しょうがい福祉課/県障害福祉課）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月18日13:15～15:00	長浜まちづくりセンター2AB会議室	19
第2回	5月9日13:15～15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	16
第3回	7月11日13:15～15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	20
第4回	9月12日13:15～14:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	16

第5回	1月9日 13:15～14:45	長浜まちづくりセンター1C 会議室	14
第6回	3月13日 13:15～14:30	長浜まちづくりセンター1C 会議室	16

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■主な協議・活動内容

1. 研修と情報共有

- ・ 就労支援サービスに関する研修の実施:就労選択支援サービスの概要、モデル事業の取り組み、支援のポイントなどについての学習。
- ・ 各事業所からの現状報告:事業内容、就労希望者の状況(就労意欲、生活基盤、就労準備状況など)、直面している課題などを共有。
- ・ 就労支援に関する事例検討:成功事例、失敗事例などを共有し、支援のヒントを得る。

2. 事例検討(ピカジップ法を活用)

- ・ 具体的な事例を基に、参加者間で多角的な視点から課題と解決策を検討。
- ・ ピカジップ法を用いることで、視覚的に情報を整理し、多様な意見を引き出し、参加者が気づきを得ることにより効果的な支援方法を探る。
- ・ 事例提供:各事業所が持ち回りで事例を提供。
- ・ ファシリテーター、板書は参加者の中から役割分担。

※ピカジップ法とは…事例提供者の提出した簡単な事例資料をもとに、ファシリテーターと参加者が協力して参加者の力を最大限に引き出し、その経験と知恵から事例提供者に役立つ新しい取組みの方向性や具体的なヒントを見出していくプロセスを学ぶグループ体験のこと(村山正治・中田行重「新しい事例検討会放 PCAGIP 入門/パーソン・センタード・アプローチの視点から」抜粋)

■活動実績(定例会議以外の活動)

○研修会

令和7年10月から開始される就労選択支援サービスについての理解を深め、圏域として適切に運用されることを考える機会として、ステップアップ推進班の中で開催。

日時:令和6年4月18日(木)13:15～15:00

場所:長浜まちづくりセンター2AB 会議室/オンライン

内容:就労の開始・継続段階の支援における地域連携の実践に関するモデル事業の実施について

講師:滋賀県障害福祉課 奥田颯太郎氏

参加者:19人

- ・ 企業見学:就労希望者や支援者に、企業の現場を見学する機会を提供し、就労へのイメージの具体化。
- ・ 求職情報の共有:はたらき・くらし応援センターと連携し、最新の求人情報を共有。
- ・ ピアサポート:ピアサポーターの活用による支援の可能性を検討。

■次年度の取り組み

- ・ 個別事例を通じた一般就労等へのステップアップへの支援やフローの共有を実施。

- 就労選択支援サービスの中でセルフプランの方（本来は計画相談が担うべき役割）を地域（協議会）としてどう担うかを整理し、ステップアップ推進班としての役割を明確にし、実行していく。

これらの協議を通して、各事業所が抱える課題を共有し、解決策を共に模索することで、就労希望者のステップアップに向けた支援体制の強化を目指す。

(2) 当事者サポーター推進班

■検討テーマ

当事者支援の核となるピアカン（※）の意義や手法を、支援者へ広く周知し、当事者主体となる支援の質向上と当事者にとってより良い支援環境を構築することを目的とする。

※ピアカンとは…ピアカウンセリングを省略したもの。ピアカウンセリングとは、1970年代初めアメリカで始まった自立生活運動の中でスタートした。しょうがいをもつ当事者自身が自己決定権や自己選択権を育て、支え合って、隔離することなく、平等に社会参加していくことを目指す。ピア・カウンセリングとは、自立生活運動における仲間（ピア）への基本姿勢のようなもので、お互いに平等な立場で話を聞き合い、きめ細かなサポートによって、地域での自立生活を実現する手助けをすること（全国自立生活センター協議会ホームページより抜粋）

■参画事業所等

座長：宮部久美（長浜市しょうがい福祉課） 副座長：饗庭大聖（米原市障がい福祉課）

参画：（CIL だんない/湖北相談処すだち/障がい者相談支援センターはたる/相談支援事業所ピットイン/ふくらの森/マルチスイッチ/湖北基幹相談支援センターふらっと/米原市障がい福祉課/長浜市しょうがい福祉課）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月24日 13:30～14:50	長浜市役所 1C 会議室	11
第2回	5月22日 13:30～14:45	長浜まちづくりセンター 1C 会議室	9
第3回	6月26日 13:30～14:30	長浜まちづくりセンター 1C 会議室	5
第4回	7月24日 13:30～14:30	長浜まちづくりセンター 1C 会議室	9
第5回	8月28日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター 1C 会議室	7
第6回	9月25日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター 1C 会議室	11
第7回	10月23日 13:30～15:00	長浜まちづくりセンター 1C 会議室	11
第8回	12月25日 13:30～14:20	長浜まちづくりセンター 1C 会議室	7
第9回	2月26日 13:30～14:30	長浜まちづくりセンター 2AB 会議室	8

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■主な協議・活動内容

(1) ピアカン研修会の開催

目的：本人の意思決定を支援する際の支援者としての基本的な姿勢や考え方をピアカウンセリング

の視点を通じて、参加者自らが気づくことを目的に開催。

日時：令和6年11月8日（金）13：30～15：30

場所：長浜まちづくりセンター多目的ホール

内容：ロールプレイング、体験談共有、質疑応答など、多様な手法を用いてピアカンに関する理解を深めるプログラムを設計。ロールプレイングでは、専門家、友人、傾聴、ピアカン、それぞれの立場の違いを演じることで、より実践的な学びの場を提供。

講師：美濃部裕道氏（CIL だんない）

参加者：12人

2024 長浜米原しょうがい者自立支援協議会 生活の充実部会 当事者サポーター推進班 主催

ピアカンの視点から学ぶ 聞くことから始める 意思決定支援 体験型研修

参加費 **無料** 定員 **20名** 程度

ピアカンとは…ピアカウンセリングのこと。
お互いにお互いの立場で話し合いを通して、きめ細かなサポートを行うことで、地域の中で自立生活を実現する活動を行います。

■当事者サポーター推進班では…
しょうがい者を支援するには、しょうがい当事者の力が大事であるという視点を中心におきながら、支援者の育成や、当事者の方の活躍の場（ピアカン等）を圏域に作っていくことを今年度の検討テーマとして活動しています。
■どんな経験ありませんか？
利用者のことを考え、良かれと思って行動に移したが、結果的にご本人の意図することはまったく違った結果になってしまった。
■この研修では…
ご本人の意思決定を支援する際の支援者としての基本的な姿勢や考え方を、「ピアカウンセリング」の視点を通じて参加者自らが気づくことを目的としています。

日時：2024年11月8日（金）13:30～15:30
会場：長浜まちづくりセンター多目的ホール
対象：障害福祉サービス事業所職員、興味のある方
申込：右記QRコードからお申込みください <https://forms.gle/9Q5wVWf0d4JzJ4FeT>
手話通訳が必要な方は参加申し込み時に入力してください ※申込締切 10月21日（月）
※参加申し込みいただいた方には、10月末を目途に受講決定／受講不可通知をメールにてお送りします。

内容
①ハッとした出来事報告
②ピアカウンセリングが大切
にしている3つの視点
③カウンセリング体験

講師：美濃部裕道
CILだんない代表
当事者サポーター推進班メンバー

問い合わせ先
長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局 担当：藤田
（長浜市社会福祉協議会 湖北基幹相談支援センターふらっと）
TEL：0749-78-2144 FAX：0749-78-2212



(2) ピアカン活動の場について

- ・事業所内でのピアカン活動：研修内容を踏まえ、事業所内で広義のピアカン活動をどのように展開していくか、具体的な方法を協議。既存の自治会活動との連携や、新たな活動の立ち上げなどを検討。
- ・地域生活塾・ふくらの森との連携：地域生活塾のプログラムへのピアカン活動の導入や、ふくらの森自治会との連携協力について、実現可能性や具体的な連携方法を協議。

■課題

- ・ピアカンに関する理解不足：ピアカンという言葉自体を知らない、またはその意義や手法について十分に理解していない支援者がいることが課題として認識された。
- ・支援者の意識改革：支援者が良かれと思って行っている支援が、時に当事者の主体性を奪ってしまっている

ケースがあることが課題として挙げられた。支援者の意識改革を促す必要がある。

- ・ ピアカン活動の場の不足：ピアカンを実施するための適切な場所や時間の確保が課題となっている。ピアカン活動を広げていくためには、活動の場を確保するための取り組みが不可欠である。
- ・ ピアカンとピアサポーターの違い：ピアカンとピアサポーターの違いを明確化し、それぞれの役割を整理する必要がある。

■今後の取り組み

- ・ 研修会の継続実施と内容充実：今年度の研修会参加者からのフィードバックを参考に、研修内容をさらに充実させ、継続的に実施していく。より多くの支援者にピアカンを学んでもらう機会を提供。
- ・ 事業所との連携強化：事業所と積極的に連携し、研修で得た学びを現場で実践できるような支援体制を構築。ピアカン活動を定着させるための協力を促す。
- ・ ピアカン活動の場の開拓：事業所内だけでなく、地域社会全体でピアカン活動の場を広げていくために、新たな場の開拓や既存の資源の活用を検討。
- ・ ピアカンに関する情報発信：ピアカンの意義や効果に関する情報を積極的に発信し、当事者や支援者、地域住民の理解を深める啓発活動を実施。
- ・ 関係団体との連携：県等のピアサポーター養成研修事業との連携や、他の地域で活動しているピアサポーター等さまざまな障害種別のピアサポーターとの交流などを検討し、活動の質向上を目指す。

以上のように、研修会の実施や、ピアカンに関する理解促進、活動の場の開拓、関係機関との連携強化など、多岐にわたる活動を通して、当事者主体の支援体制の構築を目指していく。

（３）地域移行推進班

■検討テーマ

- ・ しょうがい当事者の地域移行の壁となる金銭面の課題に対する施策等の検討
- ・ 個別ケースを通じて、圏域として地域移行を推進する取り組み

■参画事業所等

座長：笠松賢一（あそしあ）

参画：（CIL だんない/相談支援事業所ピットイン/障害者支援センターそら/湖北タウンホーム/湖北健康福祉事務所/滋賀県地域定着支援センター/セフィロト病院/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市しょうがい福祉課）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月21日 13:30～15:00	南郷里まちづくりセンター会議室 A	10
第2回	7月16日 13:30～15:00	南郷里まちづくりセンター会議室 A	9
第3回	9月17日 13:30～15:00	南郷里まちづくりセンター会議室 A	10
第4回	11月19日 13:30～15:00	湖北まこも	11
第5回	1月20日 13:30～15:00	南郷里まちづくりセンター会議室 AB	9

■主な協議・活動内容

- ◎入所施設等の見学: 前年に引き続き（湖北タウンホーム、あそしあ、ソーシャルインクルー長浜大寺町）、湖北まこもの見学を実施し、施設の現状や地域移行の課題について把握。
- ◎地域移行を推進するための方策の検討: 地域移行が進まない要因の一つとして金銭的な課題が大きいことが明らかになった。そこで、他自治体の家賃補助制度の事例(小田原市、宝塚市、船橋市)を参考に、地域移行を促進するための金銭的支援のあり方について議論を行った。
- ◎地域移行における課題の整理: これまでの議論を整理し、論点の整理を行った。住まいの確保、就労支援、地域における支援体制の構築など、多岐にわたる課題が明らかになった。
- ◎モデルケースの検討: 地域移行を検討している具体的なケースを共有し、モデルケースとして地域移行の課題や支援策を検討することを目指したが、具体的な事例の共有には至らなかった。

■議論のポイント

- ◎金銭的支援の必要性: 地域移行に伴う金銭的負担の軽減は、地域移行を促進する上で重要な要素であり、家賃補助制度の拡充や、公営住宅の活用など、具体的な方策について検討が必要である。具体的には、社会参加援助金（長浜市）などを地域移行に関する補助金として活用することなどの議論を行った。
- ◎就労支援や日中活動の場の重要性: 地域生活を安定させるためには、就労支援が不可欠である。当事者性を活かした仕事やピア活動、地域における雇用機会の創出など、多様な就労支援策の検討が必要だと考える。
- ◎地域における支援体制の構築: 地域で安心して暮らせるためには、相談支援、医療、生活支援など、多様なサービスを提供する支援体制の構築が必要であり、関係機関との連携強化や、地域住民の理解促進が重要である。
- ◎入所施設の役割: 入所施設や GH は、地域移行を支援する役割も担っている。地域移行に向けた準備や、地域生活への移行後の支援なども具体的に検討が必要である。
- ◎地域移行のメリットの情報提供: 地域移行のメリットを積極的に発信し、地域生活への関心を高めることが重要である。

■今後の展望

- ・金銭的支援策の具体化: 家賃補助制度の内容や対象者、財源など、具体的な内容について検討を進めていく。
- ・就労支援策の検討: 当事者性を活かした仕事や、地域における雇用機会の創出など、具体的な就労支援策について検討を進めていく。
- ・地域における支援体制の構築に向けた取り組み: 関係機関との連携強化や、地域住民の理解促進に向けた取り組みを進める。
- ・モデルケースの検討: 地域移行を検討している具体的なケースを共有し、モデルケースとして地域移行の課題や支援策を検討する。
- ・情報発信の強化: 地域移行に関する情報を積極的に発信し、地域生活への理解を深めてもらうための取り組みを強化していく。

地域移行推進班は、今後も関係機関と連携しながら、地域移行を推進するための取り組みを進め、地域で安心して暮らせる社会の実現に向けて、協議検討していく。

↓ほっぷる見学会の様子



2 ライフステージ専門性部会

■目的

部会のテーマ【人・制度づくり】を実現するために、「学齢期班」「専門的人材班」「成人高齢班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理。

■参画事業所

部会長：川寄誠一（湖北相談処すだち）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/障害児者地域生活ネットワーク支援事業）

参画：（学齢期班/専門的人材班/成人高齢班のメンバー）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
コア会議	9月3日 10:30～12:00	地域福祉センター3A会議室	5
第1回	11月18日 10:00～12:00	長浜まちづくりセンター多目的ホール	10

(1) 学齢期班

■検討テーマ

「発達に課題のある子どもとその家族に対する切れ目のない支援体制の構築」を目的として活動。協議する上で大切にしている視点は「こどものアドボカシー」であり、その視点を中心にしながら、下記のテーマを検討。

- ・乳幼児期から学齢期の関係機関の主導役、サービス調整における課題について
- ・家族支援（子育て支援、ペアレントメンター）
- ・進路場面での合理的配慮について

■参画事業所等

座長：川寄誠一（湖北相談処すだち）

参画：（湖北地域障害者生活支援センター「あ〜と」/フォーラムまこと/CIL だんない/長浜市教育センター/長浜市発達支援室/米原市発達支援センター/長浜市相談支援事業所/ こども療育センターいちご園/米原市児童発達支援センターてらす/ふくしあ/スポーツひろばアクト NEXT/あっぷでーと/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市しょうがい福祉課/相談支援事業所ピットイン/滋賀県発達障害者支援センター/長浜市議会議員）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数（人）
第1回	4月30日 10:00～11:45	長浜市民交流センターふれあいホール	17
第2回	6月24日 10:00～11:30	長浜まちづくりセンター1B会議室	13
第3回	9月 4日 10:00～11:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	14
第4回	10月 25日 10:00～11:30	長浜市民交流センターふれあいホール	15
第5回	12月 12日 10:00～11:40	長浜市民交流センターふれあいホール	13

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■主な協議・活動内容

◎関係機関との連携強化と現状把握

長浜市、米原市の教育委員会、障害福祉担当課、発達支援センター、福祉事業所、相談支援事業所、医療機関、療育機関、養護学校関係者など、多様な関係機関との情報交換と連携強化を図った。特に、長浜市健康推進課と米原市健康づくり課の取り組みについて詳細な説明を受け、他機関との連携について具体的な検討を行った。各機関の担当者へのヒアリングを通して、それぞれの役割、連携状況、課題を詳細に把握することができた。

◎課題の抽出と分析

関係機関との情報交換、ヒアリング、およびこれまでの活動記録を基に、以下の主要な課題が明らかになった。

- ・相談窓口の不明確さ：保護者が適切な相談窓口を見つけにくい、窓口が多すぎて混乱しやすい。
- ・関係機関間の連携不足：情報共有や連携が不足し、切れ目のない支援が難しい。
- ・保護者の孤立感：情報不足や相談しづらい状況（どんなことを相談したら良いかわからない）

から、保護者が孤立しがち。

- ・ **専門性の不足:** 個々のケースに合わせた専門的な支援が不足。

- ・ **解決策の検討:** 上記課題に対して、KJ法を用いたグループワークやブレインストーミング等を通して、具体的な解決策を検討した。主な内容は、ワンストップ相談窓口の設置、コーディネーターの配置、ペアレントメンター制度の導入、関係機関間の情報共有システム構築、保護者向け広報活動の強化などを検討。それぞれの解決策に対して、誰が、どのような方法で、どのように評価していくのか、といった具体的な計画をこれから検討していく。

◎課題

今年度の活動を通して、いくつかの課題が明らかになった。

- ・ **関係機関との連携強化の継続:** 関係機関との連携は、継続的な努力が必要であり、より密接な連携を実現するため、定期的な会議や必要に応じて合同研修等を実施する必要がある。
- ・ **人材確保と育成:** コーディネーターやペアレントメンターなど、新たな人材の確保と育成が不可欠であり、既存の人的資源の活用方法を検討する必要がある。
- ・ **周知徹底:** 相談窓口の周知徹底を図るための広報活動の強化が必要である。

■ 今後の方向性

今後の活動は、以下の2点を中心に展開していく予定。

- ◎ **関係機関との連携強化の継続:** 定期的な会議や合同研修などを継続的に実施し、関係機関との連携をより一層強化していく。

- ◎ **人材育成と体制整備:** コーディネーターやペアレントメンターが活躍できる圏域となるためには何が必要かを検討し、具体的な施策等への反映を目指す。

■ まとめ

今年度は、関係機関との連携強化、課題の明確化、解決策の検討について協議を行った。しかし、これらの成果を社会実装し、効果を上げていくためには、継続的な努力と関係機関との緊密な連携が不可欠である。今後も発達に課題のある子どもとその家族を支える、より強固で切れ目のない支援体制の構築を目指していく。

最後に、学齢期班で大切にしている「こどものアドボカシーの視点」について、班活動の中でペアレント・メンターやコーディネーターといった役割が議論されており、これらは「こどものアドボカシー」を担う存在として期待されている。これらの役割を明確化し、育成・配置することで、子どものニーズを的確に捉え、適切な支援につなげる体制構築を目指している。子どもの意思を代弁し、支援を調整する存在が不可欠である。

↓グループワークの結果を共有している様子



(2) 専門的人材班

■検討テーマ

自立支援協議会ライフステージ専門性部会専門的人材班は、圏域における専門的人材の育成・活用促進、支援の質の向上を目的として活動。

専門的人材班は、以下の2つのグループに分かれて活動を実施。

◎セラピスト G：医療系専門職（セラピスト※）と福祉現場の連携強化、セラピストの知見活用による支援の質向上を目指すための取組みについて協議。

◎発達 G：発達障害のある方の支援に携わる人材の育成、支援体制の構築を目的とした。

※セラピストとは…治療や療法を行う人のこと。療法士、治療士。PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語療法士）等。（出典：デジタル大辞泉）

■参画事業所等

座長：井下山貴（ライフまいばら）

参画：（湖北相談処すだち/ひだまり/いぶきやま/ひかり園/ふくしあ/県発達障害者支援センター/滋賀県立リハビリテーションセンター/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市しょうがい福祉課/相談支援事業所ピットイン/長浜市発達支援室）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月29日10:30~12:00	北郷里まちづくりセンターAB会議室	12
第2回	7月23日10:30~12:00	北郷里まちづくりセンターAB会議室	11
第3回	9月24日10:30~12:00	北郷里まちづくりセンターAB会議室	17
第4回	11月12日10:30~12:00	北郷里まちづくりセンターAB会議室	14
第5回	1月28日10:30~12:00	北郷里まちづくりセンターAB会議室	11
第6回	3月4日10:30~12:00	北郷里まちづくりセンター多目的ホールB	10

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■各グループの活動内容

◎セラピスト G

課題：医療系専門職への相談のハードルの高さ、セラピストの役割の認知不足、福祉現場におけるリハビリテーションのノウハウ不足。

活動内容：

- ・圏域のセラピストの現状把握とニーズ調査のため、懇談会（「湖ほっ子リハの会」）を開催（2024年10月）。23名のセラピストが参加し、活発な意見交換が行われた。
- ・懇談会で得られた情報に基づき、事業所職員向け研修会の企画・開催を検討。研修内容はセラピストの役割理解、具体的な事例紹介、日常の支援に活かせる簡単な工夫などを盛り込む予定。
- ・福祉現場の声をまとめセラピストにフィードバックすることで、双方のニーズのマッチングを図る。
- ・**今後の展望：**福祉現場とセラピストの継続的な連携体制構築、相談しやすい仕組みづくり。

◎発達 G

課題：発達障害のある方の支援に特化した人材育成、発達障害者支援体制の現状把握、発達障害者支援ケアマネジャーの活用促進。

活動内容：

- ・圏域の事業所を対象に、発達障害に関する研修受講状況、発達ケアマネの活用状況などに関するアンケート調査を実施（2024年10月～11月、別添書類③ライフステージ専門性部会専門的人材班発達 G アンケート結果まとめ参照）。
- ・アンケート結果を分析し、圏域の現状把握、研修ニーズや発達ケアマネ活用における課題の明確化を図る。
- ・分析結果に基づき今後の研修内容の検討、発達ケアマネの活用促進に向けた取り組みを検討中。

今後の展望：圏域内での発達障害支援に関する中核的人材の育成、発達ケアマネの活用促進による発達障害のある方への切れ目のない支援体制の構築。

【全体を通しての成果と課題】

◎成果：セラピスト G は懇談会を通してセラピストのニーズや課題を把握、発達 G はアンケート

調査により現状把握と課題が明確になった。

◎課題：セラピスト G は研修内容の具体化と実施体制の構築、発達 G は分析結果に基づいた具体的な取り組みの検討が必要。

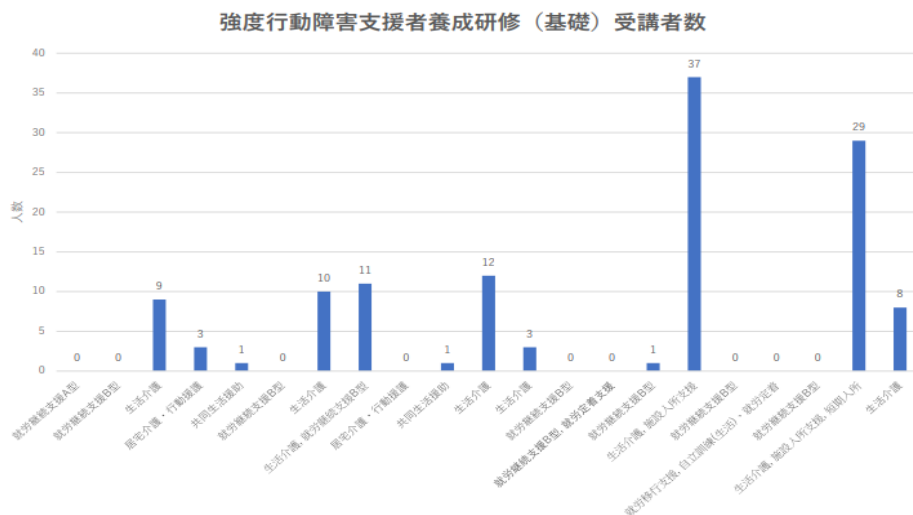
【今後の活動方針】

- ・各グループの活動を着実に進め、具体的な成果につなげていく。
- ・全体で情報共有を密にし、相乗効果を高めていく。
- ・関係機関との連携を強化し、活動の推進を図る。

【おわりに】

専門的人材班は今後も圏域における専門的人材の育成・活用促進に尽力し、支援の質の向上に取り組んでいく。

↓発達 G のアンケート結果集計結果より抜粋



3

(3) 成人高齢班

■目的・検討テーマ

高齢化する障害者の増加という喫緊の課題に対し、障害福祉サービス事業所における高齢化の実態把握、関係機関との連携強化、そして高齢障害者のより良い生活を支えるための施策検討を目的に活動。

■参画事業所等

座長：氏原優（ほおずき作業所）/副座長：曾我英男（ふくらの森）

参画：（湖北相談処すだち/いぶきやま/ゆりり/ひかり園・輝湖里/友愛・絆/湖北基幹相談支援センターふらっと/あそしあ/プラスP/障害者支援センターそら/長浜市しょうがい福祉課/相談支援事業所ピットイン）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月10日10:30~12:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	11
第2回	7月12日10:30~12:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	9
第3回	9月13日10:30~12:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	10
第4回	11月8日10:30~11:45	長浜まちづくりセンター1AB会議室	11
第5回	1月10日10:30~12:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	8
第6回	3月7日10:30~12:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	5

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■主な協議・活動内容

（1）高齢障害者支援に関する実態調査

高齢障害者の現状を把握するため、圏域内障害福祉サービス事業所（主に通所事業所）を対象としたアンケート調査（別添書類④ライフステージ専門性部会成人高齢班アンケート結果まとめ参照）を実施した。アンケート項目は、利用者の年齢構成、ADL、介護保険サービスの利用状況、事業所の設備状況、職員のスキル、他職種連携の状況など多岐に渡り、高齢化に伴う課題を多角的に捉えることを目指した。

（2）アンケート結果に基づく検討会

アンケート調査の結果を基に、複数回の検討会議を開催。検討会議では、以下の項目について議論を行い、今後の取り組みの方向性を示すことができた。

※詳細は別紙【事業所における利用者の高齢化実態把握とその課題について】を参照。

- ・実態の把握：アンケート結果から、高齢障害者の増加、介護保険サービスとの連携の難しさ、事業所における人的・物的資源の不足など、様々な課題が浮き彫りになった。
- ・課題の分析：具体的な課題を分析し、高齢障害者の生活を支える上で必要な支援内容や、関係機関との連携強化の必要性を確認した。
- ・今後の取り組みについて：関係機関との連携強化、研修会の開催、高齢障害者のニーズに対応した新たな支援サービスの検討など、具体的な今後の取り組みを検討した。
- ・圏域の事業所における高齢化の実態調査（アンケート）を実施し、その結果からみえてくる圏域の課題について協議・検討を行う。
- ・まずは実態調査の質問項目や内容を検討し、調査に向けての準備をすすめる。

■今後の展望

本年度の活動を通して、高齢障害者の増加という課題に対して、関係機関と連携しながら、効果的な支援体制を構築していく必要性が改めて認識された。今後、以下の活動に取り組む。

- ・アンケート調査の結果を踏まえ、より具体的な支援策を検討する。
- ・関係機関と連携し、高齢障害者支援に関する研修会を開催する。
- ・高齢障害者のニーズに対応した新たな支援サービスの開発・提供を目指す。

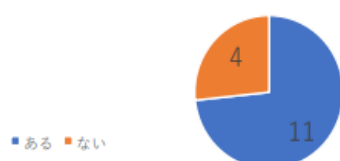
■ まとめ

本年度は、高齢障害者の増加という喫緊の課題に対し、実態調査や関係機関との連携を通して、具体的な課題の把握と今後の展望を明らかにすることができた。今後も継続的な取り組みを通して、高齢障害者の生活の質の向上に貢献していきたい。

↓ アンケート集計結果より抜粋

介護保険への移行を検討したほうが良いと思う

ケースがあるか（過去にあったか）



上記に関して、なぜそう思ったか(自由記載)

- ・医療的なニーズ、介助付きの入浴や休日の過ごし(デイサービス)など
- ・状態の変化に合わせて進めている。
- ・生活の場の対応が難しくなっている。
- ・障がいから介護に移行すると費用の負担が発生する。しょうがい負担が発生しないことから、ギリギリまでホームの生活を希望される。しかし、自立を基本とするホームである事と、身体能力の低下に伴いバリアフリーでない建物での生活は、本人がしんどい思いをするだけ
- ・活動プログラムや事業所のレイアウトは主に成人期を対象にして考えられている為、限界がある。
- ・家族の高齢化による家庭でのケアの困難さ
- ・年齢差の大きい利用者とのトラブルになりやすい(価値観の違いなど)
- ・現状のサービスでは提供できないものがあるため、リハビリ等
- ・事業所の環境、他の利用者とは合わない
- ・機能低下等
- ・施設入所施設では、サービスの限界があり、豊かな生活を提供できることが困難である。また、医療面での対応が難しい。
- ・日中作業に集中できずイライラされていた方が、デイサービスを併用されてからは、イライラがほぼなくなった。
- ・生活の場としては住み慣れた場にはなっているかとは思いますが、本人に適した介護が難しい

22

課題と考えられることへの解決策

課題1:介護保険サービスへの移行の難しさ

■関係機関との連携強化

- ・障害福祉サービス事業所と介護保険サービス事業所が定期的に情報交換や事例検討を行う場を設け、日頃からの連携を図る。

■利用者・家族への情報提供の充実

- ・介護保険サービスの内容や利用方法、費用負担などについて、わかりやすく丁寧に説明する機会を設ける。パンフレットやホームページなどを活用し、情報提供の手段を多様化する。

■モデルケースの共有

- ・円滑な移行事例や高齢でも障害福祉サービスを継続して利用される事例などをモデルケースとしてまとめ、他の事業所と共有することで、障害のある高齢者支援のノウハウを蓄積する。

課題2:高齢利用者への個別支援の難しさ

■職員の介護技術向上のための研修

- ・高齢者介護に関する専門的な研修を実施し、職員の知識と技術の向上を図るため効果的な研修を実施する。

■専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など)との連携強化

- ・専門職と気軽に相談できる体制を作り、専門職による直接的な支援が提供できる体制を整備する。

29

3 社会資源環境部会

■目的

部会のテーマ【まちづくり】を実現するために、「住む」「暮らす」なかで不安を抱える人たちが安心して生活できるように地域啓発や地域とともに活動。そのためにも「権利擁護虐待防止班」「重介護医療ケア検討班」「あるべき姿検討班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理。

■参画事業所

部会長：河井孝典（重症心身障害者通所施設えがお）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/障害児者地域生活ネットワーク支援事業）

参画：（権利擁護虐待防止班/重介護医療ケア検討班/あるべき姿検討班のメンバー）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
コア会議	8月2日 15:30～17:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	6
コア会議	9月24日 16:30～17:30	オンライン会議	5

■現地視察研修

目的：他圏域における事例を現地視察し、より学びを深め、各作業班の今後の活動にいかす。

日程：令和7年1月20日（月）8:30～17:30

視察先：社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房（甲賀市甲南町）

社会福祉法人瑠璃光会 障がい者支援センターかがやき（甲賀市水口町）

社会福祉法人しが夢翔会 多機能型地域生活支援拠点 G-square（大津市石山千町）

参加者：9人

↓やまなみ工房見学の様子



↓障がい者支援センターかがやき見学の様子



↓多機能型地域生活支援拠点 G-square 見学の様子



視察後の振り返り

日時：令和7年2月14日（金）13:30～15:00

場所：長浜まちづくりセンター1C会議室 参加者：5人

内容：現地視察研修の学びや圏域へのフィードバック、今後の取り組みについて意見交換



（1）権利擁護・虐待防止班

■検討テーマ

湖北地域において、障害者差別解消や権利擁護、虐待防止・合理的配慮の提供の視点から、誰も排除されないまちづくりをテーマに協議・検討、地域へ出向いての活動を通じ、しょうがい者への差別解消や権利擁護の啓発等の取組みを行う。地域住民へのアプローチや支援者向け虐待防止研修の開催等を通じて、風通しのよい職場環境づくりや支援の質の向上のための人材育成を行う。

■参画事業所等

座長：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）

参画：（ひかり園・輝湖里/ひかり福祉会 GH/マルチスイッチ/えがお/湖北基幹相談支援センターふらっと/あそしあ/湖北地域障害者生活支援センター「あ〜と」/CIL だんない/長浜市民生委員児童協議会/米原市権利擁護センター/長浜市権利擁護センター/大空ひだまり/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課/長浜市議会議員）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月25日13:30~15:15	長浜まちづくりセンター1B会議室	13
第2回	5月23日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
第3回	6月27日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	12
第4回	7月25日13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター会議室A	10
第5回	8月29日13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター会議室A	12
第6回	11月28日13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室A	10
第7回	12月20日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	11
第8回	1月23日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	9
第9回	2月27日13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター会議室A	12
第10回	3月27日13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室A	12

■協議内容・活動（定例会議以外の活動）

◎タウンウォッチ

目的：障害のある方だけでなくすべての人が利用しやすい施設や店舗の情報収集および国スポ・障スポ開催を見据え、県「共生社会サポーターステッカー」の普及促進。

<第1弾>

長浜駅周辺の重点区域を中心に、飲食店を中心に訪問し県の取り組み（県共生社会サポーターステッカー※）の啓発協力や国スポ・障スポに向けての意識啓発を通じて、地域の現状を把握。

班	日時	調査エリア	参加者（人）
1班	5月22日10:00~12:00	長浜城周辺	3
2班	5月20日10:00~12:00	長浜駅周辺	5
3・4班	5月17日10:00~12:00	駅前通り南側および黒壁スクエア周辺	5

※滋賀県共生社会サポーターステッカーとは…滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例第4条第2項に基づき、共生条例の理念等更なる普及等を図り、障害者への合理的配慮の提供を促進するため、共生条例の理念等に共感する者が、共生社会サポーターとして、当該理念等に沿って積極的に取り組んでいく意思を対外的に表明するもの。

<第2弾>

米原駅周辺の重点区域を中心に、飲食店を中心に訪問し県の取り組み（県共生社会サポーターステッカー※）の啓発協力や国スポ・障スポに向けての意識啓発を通じて、地域の現状を把握。夕方の時間帯に長浜駅黒壁周辺の地域のタウンウォッチも実施。

日時	班	調査エリア	参加者 (人)
令和6年10月24日14:00~15:30	3班	米原駅周辺 東口エリア	7
	4班	西口エリア	6
令和6年10月24日16:30~18:00	3班	長浜駅周辺 南側エリア	7
	4班	黒壁エリア	6

・具体的な方法：3班集体で、各店舗等のスロープの勾配、トイレの使いやすさ、道路の段差などのバ

リアフリー状況の調査結果を班員内のオープンチャットにて共有。

- ・訪問店舗に「共生社会サポーターステッカー」の普及啓発。

調査結果の主な課題：

- ・施設のスロープが急勾配で危険な箇所があった。
- ・車いす利用の想定がない店舗が多く入口段差が課題。
- ・夜間は道路の段差や暗さが危険であり、追加調査の必要性も考えられた。

改善活動：

- ・共生社会サポーターステッカーの申請手続き簡略化を県に提案した。
- ・米原市役所多目的トイレのドアに使いにくさがあり、改修を提案 → 改修が実施された。

↓タウンウォッチの様子



◎虐待防止研修会（湖北基幹相談支援センターふらっと共催）

日時：令和6年11月22日（金）13:30～15:30

場所：米原市役所コンベンションホール

内容：①講演「しょうがいのある方と共生するまちづくり～支援者として必要な心構えについて～」

講師：特定非営利法人ふいーる工房統括 新井在慶氏

②グループに分かれて意見交換

参加者：47人

参加者アンケートからは「現場の悩みを共有できた」「支援の見直しに役立つ」との声が寄せられた。



主催 ○長浜市しょうがい者自立支援協議会 社会資源環境部会 (権利擁護・虐待防止班)
○湖北基幹相談支援センターふらっと

虐待防止研修

「しょうがいのある方と共生するまちづくり
～支援者として必要な心構えについて～」

基幹相談支援センター等が開催する虐待防止に関する研修へ事業所が参加した場合、事業所の研修実績として認められます。
講演だけでなく、支援の中で迷った事例を通して、グループで意見交換しながら主体的に学びます。しょうがいのある方が安心して地域で生活することは、共生社会のまちづくりにつながっていくのではないのでしょうか。ぜひ、この機会にご参加いただき、権利擁護や虐待防止への意識・知識を高めましょう。

2024年11月22日(金)
13:30～15:30

参加費無料

講師
特定非営利活動法人ふいーる工房 統括
あらい ありのぶ
新井 在慶 氏

会場：米原市役所 本庁舎
1階 コンベンションホール
(住所/米原市米原1016)
対象者：湖北圏域障害福祉サービス
提供事業所等職員
定員：50名
申し込み締め切り/11月8日(金)

主催/長浜市しょうがい者自立支援協議会
社会資源環境部会 権利擁護・虐待防止班
/湖北基幹相談支援センターふらっと
事務局所在地/長浜市湖北町建水1860

【プロフィール】
平成22年、愛知県相談支援専門員協議会
発足時から理事に就任され、田原市障害
者総合相談センター長を経て、現在ふいー
る工房統括として従事する。本人や家族の
願いを妥協することなく強い求め、地域づ
くりの中核として活躍。権利擁護や虐待防
止の講演で全国を飛び回り、障害福祉に
ついて分かりやすく熟知する。

■裏面の申し込み書、またはQRコード
を読み込み必要事項をご記入の上、お申し
込みください。
※手話通訳が必要な方は、裏面の□欄
に○を記載ください。

https://forms.gle/CLT6dC8jwqokvyy9Ch
事務局/担当者：岸田 TEL:0749-78-2144
FAX.0749-78-2212



◎虐待防止センターとの連携強化：

- ・毎年、長浜市・米原市の虐待防止センターによる報告会を開催。
- ・近年、計画相談員からの通報が増加し、20代の被虐待が多い傾向。
- ・性虐待の終結方法について、学習機会の提供が必要との意見が出た。
- ・事例分析を通じ、より適切な支援体制の確立を目指すことの必要性を認識した。

◎湖北版自己チェックシートの作成・活用

- ・虐待の予防と支援の質向上を目的に、湖北圏域版自己チェックシートを作成。
- ・チェックシート導入後、モデル事業所で試験運用を実施予定。
- ・自己チェックを通じ、支援者自身の気づきを促し、虐待防止につなげることを目指す。

■次年度について

○タウンウォッチを継続し、バリアフリー環境の改善を目指す

- ・重点整備エリアを拡大し、観光施設や宿泊施設も対象にしていく。
- ・調査結果を行政と共有し、改善策について検討。

○虐待防止のさらなる強化

- ・湖北版自己チェックシートの試験的導入（様式だけでなく、研修プログラムも検討）。
- ・支援者の意識向上を図るための取組みも実施予定。

今年度はバリアフリー環境整備と虐待防止に重点を置き、タウンウォッチ活動や自己チェックシートの導入についての検討を進めた。虐待防止研修を通じて、支援者の意識向上にも取り組んだ。今後も調査結果を行政と共有し、改善策を推進していくとともに、地域の支援体制の充実を目指す。

（2）重介護医療ケア検討班

■目的・検討テーマ

湖北圏域に住む重介護及び医療ケアを必要とする方達の地域生活の充実

■参画事業所等

座長：近藤真美（重症児者相談支援センターてくてく）

参画：（えがお/かけはし/湖北基幹相談支援センターふらっと/CILだんない/滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センターこあゆ/ふくしあ/障がい者相談支援センターほたる/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課/大空ひだまり/長浜赤十字病院/湖北健康福祉事務所/ぷらす P/市立長浜病院/長浜養護学校/当事者ご家族/浅井東診療所/相談支援事業所ピットイン）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月18日13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室A	18
第2回	5月16日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	18
第3回	7月18日13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室A	22
第4回※	8月22日13:00~14:30	神照まちづくりセンター会議室A	17
第5回	10月17日13:30~14:30	南郷里まちづくりセンター多目的ホール	14
第6回	11月21日13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室A	14
第7回	12月19日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	16
第8回	1月16日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	20
第9回	2月20日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	12

※あるべき姿検討班と合同で研修会を開催。

テーマ：「社会調査における基本的な視点」 講師：金城学院大学 橋川 健祐氏

■協議内容・活動実績（定例会議以外の活動）

①圏域の医療的ケアまたは重症心身障害児の実態調査（地域課題の把握）について

- ・実態調査の目的について意見交換等を通じて、班員一人ひとりが目的を共有。
- ・社会調査における基本的な視点の研修を受講し、社会調査の視点、用語、調査票の作成方法について

て学ぶ。

- ・対象者の選定：特別支援学校（以下、養護学校）だけでなく、地域の支援学級等に在籍している学齢期における医療的ケア児および重心児の家族を対象とした。
- ・湖北圏域：36名程度
- ・調査方法：面接による聞き取り調査とした。養護学校の協力のもと、在籍中の児童の家族に事前に依頼文を送付。調査の目的や方法、調査日時を案内し、来校いただいたご家族に班員が2名体制で聞き取り調査を実施。当日は6名の協力があった。
- ・地域の支援学級等に在籍する児童のご家族には、学校や担当の計画相談員の協力のもと、聞き取り調査を実施。

	日時	場所	保護者 (人)	参加数 (人)
実態調査	6月20日13:30~14:30	長浜養護学校	6	14

②研修会の開催（摂食・嚥下の視点から考える研修）の開催。

- ・摂食・嚥下は家族にとって悩みが大きい部分であるが、専門機関は身近になく、支援者が学んだり、相談したりする機会が少ないため、今年度研修会を開催。
- ・びわこNST協議会による「摂食（たべる）、嚥下（のみこむ）食べることは生きること」
- ・日時：2024年10月17日14:30~16:30
- 講師：びわこ学園医療福祉センター草津
言語聴覚士 中谷芽氏
- 参加者：48名（内訳：ヘルパー、支援員、福祉施設職員、看護師、相談支援専門員等）

③医療的ケアが必要な人が福祉サービスを利用する際に必要な医療からの様式を湖北圏域で統一に向けた協議・検討。

- ・現状：医療的ケア児者が福祉事業所を利用する時に主治医指示書が必要になることがある。しかし、現状では主治医指示書の提出は制度化されておらず、決まった書式はない。医療と福祉の連携強化も含め、圏域で一定のルールや書式の作成を行う。
- ・介護保険分野において、「びわ湖あさがおネット」という診療情報や在宅療養支援情報をインターネットによって関係機関で安全に共有できる仕組みについて学ぶ学習会を開催。
日時：2025年1月16日13:30~15:00
場所：オンラインと会場参集のハイブリット型研修
メリット、デメリット等について知る機会となった。
まずは、圏域で書式の統一のための取り組みを行っていくことの必要性を班員で共有した。

令和6年度
長浜市障がい者自立支援協議会
社会福祉協議会 養分福祉ケア検討班 主催 研修会
協賛 社会福祉法人びわこ学園 医療福祉センター草津

参加費 無料

びわこNST協議会による
**摂食（たべる）
嚥下（のみこむ）**
食べることは、生きること

日時 10/17 木 14:30~16:30
場所 南郷里まちづくりセンター多目的ホール
定員 30名
対象者 医療、福祉、教育に携わる全ての人

講師の先生は30年以上、食のサポートをされている。言語聴覚士の中谷先生にお話をしています。
食べにくくなって、飲み込みにくくなって、急に医療的な方法で解決するのではなく、生活の中での支援を通して、地域で暮らしながら、おいしく食べていくためのお話です。
基本のお話から、専門職から見た摂食嚥下の問題もごめた、色々なお話を予定しています。

申込締切 2024年10月7日[月]まで
下記のGoogleフォーム、QRコードから申し込みください。
<https://forms.gle/Nz6u71PPqLmAEmV6>

講師紹介
言語聴覚士 中谷 芽
社会福祉法人 びわこ学園
医療福祉センター草津

お申込み
お問合せ 社会福祉法人 びわこ学園
医療福祉センター まで
0749-53-0111
[担当：近藤・尾崎]



■次年度について

○圏域の実態調査の対象を出生から就学前にも広げ、児童全体（出生～１８歳まで）の状況把握

- ・より圏域の状況を把握するため、就学前の児に対しても実態調査を実施予定。

課題解決策の具体化と提言:

- ・実態調査結果を踏まえ、課題解決策の具体化、必要な施策について行政へ提言等行っていく。
- ・提言内容の実現可能性を高めるため、関係機関との連携を強化する。

関係機関への情報提供と周知:

- ・検討結果を報告書としてまとめ、関係機関に情報提供を行う。
- ・研修会等を通して、検討結果の周知に努める。

○主治医指示書の統一への取組みについて

・現状把握と統一様式の作成

圏域の福祉事業所の指示書の書式を情報収集し、どのような医療情報が必要かを医療側、福祉側から聞き取りし、圏域として一定の様式を作成する。

・関係機関への情報提供と周知:

ホームページ等周知の機会を活用し、統一した様式について、関係機関等に情報提供を行う。

○災害対策について

・災害対策としての現地調査、地域と方と共に避難訓練の実施

次年度も災害対策として、現地調査を継続的行っていく。地域の避難訓練に参加し、より具体的に避難を想定した時の課題等を検討し、実行可能なものとしていく。

↓協議の様子



(3) あるべき姿検討班

■目的・検討テーマ

湖北圏域において、障害のある方が地域で安心して必要なサービスを使い続けられるよう、サービス提供体制の持続可能性を検討するため、現状把握と課題分析を行い、今後の体制整備に向けた提言を行うこと。特に、少子高齢化に伴う職員不足という喫緊の課題に対し、持続可能なサービス提供体制の構築に必要な視点や方向性を探る。

■参画事業所等

座長：山瀬道範（ひかり園・輝湖里）

参画：（えがお/ひだまり/ライフまいばら/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課/相談支援事業所ピットイン/湖北基幹相談支援センターふらっと）

オブザーバー：橋川健祐（金城学院大学）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	7月4日 14:00～15:40	長浜まちづくりセンター1C会議室	8
第2回	8月22日 13:00～14:30	神照まちづくりセンター会議室A	23
第3回	10月1日 15:30～17:00	地域福祉センター3A会議室	5

■協議内容:

◎現状把握と課題の明確化（2024年7月～10月）:

- ・関係機関、当事者、事業所職員へのヒアリング、既存資料の分析を通して、現状把握と課題の明確化に努めた。
- ・具体的には、サービスの需給バランス、職員の処遇・労働環境・やりがい、事業所の経営状況、行政の支援策などを検討した。
- ・金城学院大学 橋川先生をオブザーバーとして招聘し、社会調査の基本的な視点に関する研修を実施。今後のアンケート調査設計の妥当性向上を図った。
- ・現状と課題についてKJ法を用いて可視化し、以下の2点に焦点を当てた。
 - 職員の働く環境と、職員が望む職場環境の実態把握と課題分析
 - 法人の取り組みと制度上の課題の整理、行政への提言事項の抽出

◎アンケート調査設計（2024年10月～）:

- ・収集した情報、KJ法で明確になった課題を基に、アンケート調査の設計を開始した。以下の3つの視点を取り入れることを検討した。
 - **障害福祉サービス支給量と実際の稼働率の可視化:** サービス提供の実態を把握するため、支給量と稼働率の乖離に着目。
 - **法人、事業所、事業所種別を越えての連携協力の可能性:** 法人・事業所間の連携状況や課題を把握し、協力体制構築の可能性を探る。
 - **組織作り（teamビルディング）:** 働きがいのある職場環境づくりの観点から、チームワーク、コミュニケーション、人材育成等の現状を把握する。

・上記 3 つの視点に加え、職員の定着率向上、働きがいのある職場づくりに焦点を当て、以下の項目についても質問項目として検討した。

- 働き方の多様化 (週休 3 日制、短時間勤務等)
- キャリアパス支援、研修制度の充実
- ICT 活用による業務効率化
- 職場環境改善、ハラスメント対策
- 報酬以外の収入源確保

■活動実績（定例会議以外の活動）

・上記第 2 回の会議は勉強会を実施。

テーマ：「社会調査における基本的な視点」講師：金城学院大学 橋川 健祐氏



■次年度の取り組みについて

◎アンケート調査の実施と分析:

- ・ 設計したアンケート調査を実施し、結果を分析。
- ・ 特に上記 3 つの視点と質問項目への回答を分析し、現状把握と課題の明確化を行う。

◎課題解決策の具体化と提言:

- ・ アンケート結果を踏まえ、課題解決策の具体化、行政等への提言を策定。
- ・ 提言内容の実現可能性を高めるため、関係機関との連携を強化。

◎関係機関への情報提供と周知:

- ・ 検討結果を報告書としてまとめ、関係機関に情報提供を行う。
- ・ 研修会等を通して、検討結果の周知に努める。

V 全体会議

I 第1回全体会議（映画上映会含む）

日時	場所	参加者（人）
9月20日10:00～15:30	長浜まちづくりセンター多目的ホール 長浜市役所多目的ルーム1～3	104名

↓上映会の様子



●アンケート結果（映画「大空へはばたこう」に関する）

1	・地域で自分らしく生きるには、地域近所の人の理解をどうやって得たらいいのか考えないと。そして支援をしてくれる人が必要。親がなくなって家で一人暮らしているが、姉がめんどうを見ている。しかし将来的に高齢の姉の健康不安もあり、最終的に高齢者施設への移行も考えるよう言われている。障害にかかわらず、自分自身も不安。
2	・バリアフリー上映を初めて体験しました。内容も考えさせられました。
3	・長時間の映画でしたが、これだけの時間がないと満足できる物が作れないのだと思いました。良い映画でした。本当に実現すれば良いと願います。
4	・内容の熱い映画であった。地域で受け入れも出来る住み慣れた環境作りが出来れば良い。地域

	の人々との絆と共に暮らせる社会ができれば良い。
5	・地域の理解と、役割を考えさせられた。ありがとうございます。
6	・福祉の歴史を再確認できました。 障害についてどれだけ理解しているかによって、地域での生活が確保されるかなと思います。 障害のあるなしに限らず、皆が自由に個性豊かに過ごせる世の中になってほしいです。
7	・バリアフリー映画を初めて見ました。 一緒に同じ物を見て感じる共感、考える、話し合えるのは、いいなと思いました。
8	・歴史的な部分がとてもわかりやすかったです。“どんなに障害が重くても安心できる場所、信頼できる人がいれば大丈夫”と話された言葉が心に残りました。障害有無にかかわらず、お互いの信頼関係が築ければ、地域での生活は可能だと感じます。ありがとうございました。
9	・身障1級の者ですが、知的障害者の母親の立場から、入所の場所よりの大変さが解りました。入所施設集団生活の中で自由がなかなかない、その中で施設の中での生活は苦しいとの多くの方の報告 心のアドバイス方式も大切さも必要です。 ・グループホームへの暮らしの大切さ。 ・心身の問題→今後の取組みが大切です。 ・自立して行く支援の大切さ。
10	・私の知的しょうがい者の見方が大きく変わった時間でした。もっと多くの方にこの映画を見て欲しいと思いますが、一歩踏み出す気持ちが持てないと難しいのかと思えます。
11	・入所施設の実態を知らなかった事を恥ずかしく思いました。 地域移行は大事なことです。その環境作りが大切ですね。
12	・意識を変える映画でした。グループホームがたくさん地域にできるといいと思いました。
13	・みんなが希望できる生活が出来るといいですね。グループホーム、もっと出来るといいです。
14	・重度の知的障がいのある娘、希望としては地域のグループホームにと思っていますが、なかなか望めそうにないのが現実です。今は一緒に暮らしていて、お互いに安心感のある生活をしていますが、将来への不安はやはりありますが、本人の幸せを一番に考えて！

↓令和6年度第1回全体会の様子



2 第2回全体会議

日時	場所	参加数（人）
3月14日 13:00～15:30	長浜まちづくりセンター多目的ホール	63

↓当日の様子



<部会報告後の質疑・応答>

就労選択支援プロジェクト

！(感想等)
・みどり・きいろチームで協議されて課題が見えてきたのが良かった ・地域である程度方向性の定まったアセスメントがとれるのがいいと思いました ・就労経験のない方、引きこもりの方にアプローチできるチームはとても良いと思う ・SSW,SCと連携し、中学、高校など引きこもりのリスクが高い生徒についての情報共有することが大事だと感じます ・「みどりチーム」の支援の方向性は非常に良いと思う。成功事例を増やして欲しい ・専門のチームに関わっていただけると当事者にとってよりプラスにつながるのでは？
？(疑問等)
・アセスメントシートの統一は？国ベースのものでしょうか？地域で作られますか？ ・当事者視点の工夫はされていますか？ ・他圏域の情報は(他はどうされていますか)？ ・先程、養護学校の先生が話されていた“受け入れ先がない”という部分について、橋渡し先がない場合は、どのような流れになるのですか？ ・湖北圏域でどのような業種需要があるのが見えませんか。受け手の整理、情報収集はどうするのでしょうか？ ・手引きは今後どのように広めていく予定ですか？ ・先進事例について、具体例があれば教えてください ・就労選択支援とはどのような支援か教えてください ・当事者の話をどのように聞かれていますか？全く情報の発信がない。

地域生活塾プロジェクト

！(感想等)
・報告の中で本人が意見を発することができるようになったことはすごく大切なことと思いました ・生活塾のメンバーから活動内容をきいているが、その方が成長されて行かれた。自分達で会議をするということ、自分達で決められることが素晴らしい ・自分らしい人生を歩むために必要な活動です。引き続きよろしくお願いします。何かしらお手伝いできればいいのですが。 ・自ら選んだ場で人と人の間で育まれるものがたくさんありそうで、とっても良い活動ですね。 ・福祉に関する人材不足は共通の課題…。声を上げ国にとどく活動が大切です ・「学ぶ」より「楽しみ」で参加されていた方もいたが、経験することって大切ですね ・多職種連携のチームワークづくり(人材育成)も進めていけるとよいなと思います ・自分の生活について自分で考える、意思決定、そこに広がりをもてることは良いと思います
？(疑問等)
・当事者がやってみたいことは個々に違うと思うが、塾で学ぶ題材にするかどうかはどこで判断しているか？ ・塾生は新しい人が入ることはあるのか。今いるメンバーの卒業はあるのか？ ・様々な障壁のうち、社会的な偏見をなくしていくための具体策は？ ・参加者にはそれぞれのやりたいこと、ライフスタイルがあると思うのですが、塾と本人、相談員等とのつながり、連携はどうなんですか？

生活の充実部会 ステップアップ推進班

！(感想等)
・成功事例だけでなく失敗事例を共有するのは大事だと思う ・就労選択支援を受けられる方にはセルフプランの方が多いので、地域としてサポート体制ができることを期待します ・ピカジップ法での事例検討を知り、気づきを多く得た ・各事業所からの事例検討が良いと思います ・ピカジップで検討されたことに興味がわきました ・就労のイメージを具体化させる事は非常に良い事と思う。どれだけイメージを持ってもらえたかの判断は難しいが、本人がイメージしてもらえないと動けない ・企業の現場を見学できる機会の提供は大事。聞くだけではなく雰囲気もわかるし、よりイメージしやすい ・企業見学を障がいの程度も含めてもう少し機会があったらと思う(あるのかもしれませんが)
？(疑問等)
・ステップアップできる力はあるのに、それを希望していない人への働きかけは行っていますか？ ・ピカジップ法？ ・事例検討によりどのような課題や解決策がありましたか？ ・生活面で気をつけている事、課題はありますか？ ・ステップアップを進める中での湖北での課題について教えてください ・就労する力はあるがお金の使い方に大きな課題があるためステップアップに踏み切れない方もいます。そういう課題のある方へのはたらきかけ方はありますか？

生活の充実部会 当事者サポーター推進班

！(感想等)
・ピアカンを当事者でも取り組んでいきたい、学びたい ・すごく良い取組みだと思う。課題は多いと思うが、継続活動して欲しい ・ピアカン活動しているところが少ないので、なぜこういう活動をしようという方向にいきついたのか？ ・ピアカンがもっと広がればよい ・具体的な技法について知りたいと思った
？(疑問等)
・ピアカカウンセリングについてもう少し説明がほしい ・ピアカンとピアサポーターの違いがよくわからない ・そもそも「ピアカン」の説明がほしい ・同じ様な立場や悩みを抱えた人達だと誰が判断するのが見えない。個々の対応になってしまうのでは？ピアカン未体験なので見えない ・ピアカンとピアサポーターの違いが示されているものは今までもあるのでしょうか？また今回何か作成されましたか？ ・ピアとは仲間同士という事なのに、当事者同士がしなければならない事で、当事者に対してピアカン講習の情報発信がされていない！！ ・現在ピアカンは圏域にどれぐらいおられるのか？知的、身体、精神それぞれでおられる？

生活の充実部会 地域移行推進班

！(感想等)
・就労でつまずき、初めて診断をもらわれ、福祉につながるようなケースの方の場合、家族との関係性も難しくなっておられ、介入ができにくかったり、二次障害としての精神疾患も進んでおられたりと地域移行、地域での生活が難しいケースに出会います。モデルケース等あれば、ぜひ共有したいです。 ・企業に働きかけ障害者雇用を増やしていただく、企業に見学していただくことで理解が深まる ・就労支援はポイントにあるように不可欠だと思う。定着支援の考えもあれば良いのかと思う。 ・地域移行にもっていくことに地域の抵抗がまだまだあるので、地域住民の方の協力をもらえるような仕組みをつくつたらいいと思う ・地域移行のメリット、モデルケースの発信ができると良いと感じます
？(疑問等)
・家賃補助…収入の中で暮らすという意味で入るお金の方で考えたい ・地域移行を希望している障害者の方がどれだけいるのか見えてこない、コメント難しい ・地域移行のメリットを積極的に発信し…とあるが、具体的なメリットはどのようなものがあるのか？ ・GHが追い付かない今、どのようにして地域移行を増やせるのか？ ・当地域には、地域移行を希望されている方は何人ぐらいいますか？ ・社会参加援助金とは？ほかに活用できる制度は？

ライフステージ専門性部会 学齢期班

！(感想等)
・関係機関との連携、人材確保、育成が課題として出され、今後の取り組みに期待したい ・児童についてもペアレントメンターがいてくれたら相談としてとても協力しながらいい支援の情報共有ができると思います ・発達に課題がある子の相談フォローなどあってほしいと思っています。先が見えない不安を少しでも解決できる様に、大人にも見通しがつく様に、市と協力した圏域での支援図など期待しています ・課題等が整理されていてわかりやすかったです ・ペアレントメンター、コーディネーターが活躍できる仕組みづくりを進めてほしい ・大切なところだなと思うので頑張ってください
？(疑問等)
・切れ目ない支援のために担当がかわる時など情報共有するシステムの確立ができているか ・養護学校や支援クラス以外のグレーゾーンと言われる方、保護者へはどのような働きかけがありますか？ ・“わかりにくい窓口”ということですが、一定皆さんがわかりやすくなるための“何か”を作られたりはされていますか ・他でも「人材確保」とあって色々な専門性のある人の人材確保をしないといけないようですが、人材確保できそうですか？

ライフステージ専門性部会 専門的人材班

！(感想等)
・リハビリを必要とされる方が多いが、そのニーズが医療機関のみで断られてしまうことがあるので、PT のみでなく、福祉職の現場が学べることができたらと思う ・セラピストへの働きかけ必要と感じます！福祉と連携とれる仕組みほしいです ・皆さん色々な研修を受けておられてびっくり。自分も頑張らないと思いました

・(発達について)早期の相談は大事！
？(疑問等)
・湖北での小児リハに対応できるセラピストに限りがあり、対応できない現状がある。セラピスト間でもその辺りはどう捉えておられるのか？ ・医療系専門職(セラピスト)とは、どんな人のことを指しますか？ ・23名のセラピストさんはどこに所属されていますか？(病院とか) ・専門職(医療・ケアマネ)へのつながり方はどこで知ることができるのか？ ・そもそも発達障害者支援ケアマネジャーはどんな人が(そもそも経験や基礎的なものがあつた上で?)どうやったら(どんな研修を受けたら)なれるのですか？

ライフステージ専門性部会 成人・高齢班

！(感想等)
・しょうがい者の高齢化が進む中、地域で皆で支える仕組みづくりが大切 ・金銭面の課題があり、ご家族が介護保険に消極的なパターンもある ・グループホーム利用者の高齢化も顕著です。
？(疑問等)
・高齢分野のケアマネさんとかとの情報共有など何か連携について協議されていますか？教えてください ・高齢障害者の増加による具体的な課題としてどのような課題を整理されたかを教えてください ・具体的にケアマネ協さんとの連携(の内容)はありましたか ・介護保険側からの障害高齢者の受け止めがどのような捉え方とされているか？流れている事業所間で理解を深めたい。施設⇒介護保険施設 ・B型事業所で働かれている高齢障害者の方の今後について、検討が必要ですが、ただ移行すればよいだけではないので…教えてください

社会資源環境部会 権利擁護虐待防止班

！(感想等)
・自己チェックシート、興味あります ・自己チェックシート良いと思います ・自己チェックシートを実際に使ってみたいと思う ・自己チェックシートを湖北圏域版として作成されたところが、各事業所まかせ、事業所によって対応が違う…とかではなく、皆で視点をそろえて気をつけていけていいですね。 ・タウンウォッチはとても良い活動だと思う ・タウンウォッチを通じて、バリアフリー(化)の店等が増えたらと思った(現在、コロナの件で減ってしまった所がある) ・バリアフリーに関して、マッピングしたものを見たいです(毎年更新してほしい) ・事業所向けの研修会、GW、啓発の継続が大切だと思います
？(疑問等)
・虐待になる前、ちょっとした関わりの中で気づいてなくしていけるといい ・移動手段にマイちゃん号やタクシーを利用されている人が多い(通院や買い物等他)。その人たちの交通費がかなり金額が高く、そこにも目を向けてほしい

社会資源環境部会 重介護医療ケア検討班

！(感想等)
・災害時に誰一人取り残さない為にも具体的な対策が必要となってくる ・災害への不安の声はよく聞きます。大切な取り組みとしますので、推進してください ・出生からの状況の把握と課題解決策はとても必要性を感じています。(テンカラーズドリームの取り組みもあります)。相談先、訪看も少ないと感じています ・事業所独自の様式は良いところ、悪いところがあり、統一は良いと思う ・支援できる体制をとれる事業所が重介護の場合は少ないので、研修等の機会をもっとあればと思う ・主治医指示書の統一は大変でしょうが、できてしまうとメリットだらけだと思います。 ・少数なので課題があってもどうしても後回しになってしまうかも…という印象ですが、命がかかっている大切な所なので、大声出して頑張っていきましょう！ ・びわ湖あさがおネットの仕組みを当事者にとってメリットあるものへ ・情報提供する登録医療機関があさがおネットを登録していないこと ・医療費をおさえる面での検査情報を共有できるように
？(疑問等)
・出生～未就園の児の実態調査についてどのようにアプローチしていきますか？ ・出生～未就園の児と家族が抱える問題として、どのようなことが予測されますか？ ・独自に項目を追加している所もあるとすると、何を基準にして必要、不必要を分けるのか？ ・災害対策で長浜と米原と同じ圏域だけと違いはありますか？ ・災害対策は大事！課題を具体的に考える場はあるの？

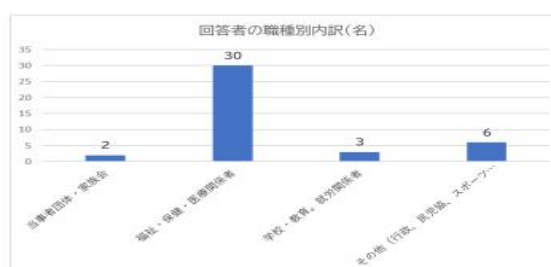
！(感想等) ・職場環境を事業所間でもっと見学しあって比較したり改善していく機会をもったらどうかと思う ・職員の定着率向上に働きがいのある職場づくりが大切。職員の声を反映する ・週休3日、10時間×4日を望んでいる人もいます。 ・週休3日制いいとおもいます
？(疑問等) ・週休3日制に必要なサービスを提供し続ける体制は維持できるのか？より多くの人が必要になるだけでは？ ・ICTの活用…具体的には？費用は？ ・報酬以外の収入源とは？報酬以外の収入源確保って具体的に何ですか？ ・働き方の多様化、職員の処遇の両立の難しさの解決と財源確保はどのように考えていられるのでしょうか？

↓アンケート集計結果

令和6年度第2回長浜米原しょうがい者自立支援協議会 全体会議アンケート集計結果

回答者の職種別内訳(41名)

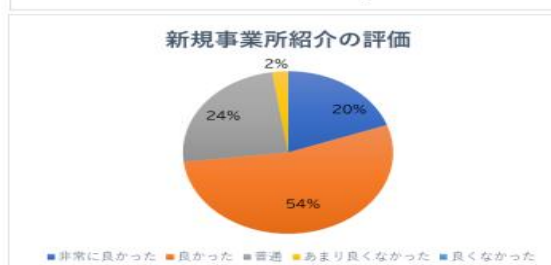
- ・当事者団体・家族会:2名
- ・福祉・保健・医療関係者:30名
- ・学校・教育・就労関係者:3名
- ・その他(行政、民児協等):6名



各アンケート項目の評価結果

新規事業所紹介の評価

- ・非常に良かった:8名
- ・良かった:22名
- ・普通:10名
- ・あまり良くなかった:1名
- ・良くなかった:0名



自由記載

- ・新しい事業が増えていくことはよいこと、継続されることを願いたい
- ・内容がよくわからない

作業班およびプロジェクト会議活動報告(報告形式)

- ・非常に良かった:14名
- ・良かった:18名
- ・普通:7名
- ・あまり良くなかった:1名
- ・良くなかった:1名

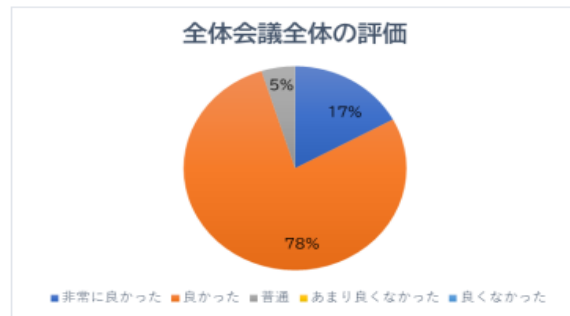


自由記載

- ・興味のある所に行けるのが良かった
- ・報告を詳しく聞けてよくわかった
- ・直接対話形式でとても内容が深められてよかったです
- ・より活動内容を深く知れました
- ・ワーキンググループ毎に意見交換する形が良かった、参加型は新しい形で良かった
- ・付箋を貼ることで他の方の気づきや疑問も知ることができ、気づきが増えました
- ・いままでない報告方法で良かった
- ・気になる所を聞けて楽しかったです

全体会議全体の評価

- ・ 非常に良かった:7 名
- ・ 良かった:32 名
- ・ 普通:2 名
- ・ あまり良くなかった:0 名
- ・ 良くなかった:0 名



自由記載

- ・次第通りに進んで、ストレスのない進行だった
- ・メリハリのある全体会になったかと思います。色々な課題や様々な意見についてのズレはどこでも起こるので、これからみんなでぼちぼち頑張りましょう
- ・意見交換しやすかった
- ・参加者も多く、しょうがい者への関心が高いことがうかがえた
- ・いつもと違う形式であったので良かった
- ・9月(前回)よりは良かった。当事者の意見が言える機会があった
- ・これからもよろしくお願いします

VI その他の会議

■日中サービス支援型共同生活援助定期評価会議

- ・日時:8月21日(水)15:15~16:30
- ・対象事業所:ソーシャルインクルーホーム長浜高月/長浜大寺町

VII 事業所等連絡会

■目的

同種別の障害福祉サービスを運営している事業所が集まり、サービス種別ならではの情報共有や意見交換を行った。課題に対して具体的な協議を実施する専門部会とは役割を分け、気軽に相談、他事業所の取り組みなどの共有が出来ることを期待。

■活動実績

・就労支援事業所等連絡会

5月31日(金)10:00~12:00 長浜まちづくりセンター1C会議室

参加事業所:こほく自立応援センター/つどい/Link/ワークスさぼてん/ワークスさかた/フォーユー/湖北みみの里/ハグウェル/ほおずき作業所/あっぷでーと/支援センターそら/ピットイン/ふらっと/事務局

・放デイ・児童発達支援事業所等連絡会

第1回 6月28日(金)10:00~12:00 長浜まちづくりセンター1C会議室

参加事業所:キッズパーク/あーと/たいよう/ひまわり/陽空ひだまり/キッズステーション/フォーラムまこと・フォーラムはな/カラフル・カラフルびわ/長浜市療育センター/スポーツひろばアク

ト/アクト NEXT/マネビー/ふらっと/長浜市相談支援事業所/長浜市しょうがい福祉課/虹色ひだまり/基幹相談/事務局)

第2回 9月27日(金) 10:00~12:00 長浜まちづくりセンター1C会議室

参加事業所: キッズパーク/あーと/たいよう/ひまわり/陽空ひだまり/キッズステーション/カラフル/浜の子園/スポーツひろばアクト/アクト NEXT/アオ/長浜市発達支援室/長浜市相談支援事業所/長浜市しょうがい福祉課/虹色ひだまり/事務局

第3回 1月17日(金) 10:00~12:00 長浜まちづくりセンター1C会議室

参加事業所: あ〜と/コペルプラス/青空ひだまり/キッズ station 長浜/アクト/アクト NEXT/カラフル/キッズ station 長浜セカンド/てらす/ひまわり/長浜市いちご園/CIL だんない/長浜市しょうがい福祉課/ふらっと/長浜市発達支援室/基幹相談/事務局

・施設入所、GH 事業所等連絡会

第1回 7月26日(金) 10:00~12:00 南郷里まちづくりセンター会議室 AB

参加事業所: ひかり福祉会 GH/湖北会はまべ/ひだまり/湖北まこも/ルピナス/おおぞら福祉会/ソーシャルインクルー長浜高月町/ソーシャルインクルー長浜大寺町/湖北タウンホーム/基幹相談/支援センターそら/虹色ひだまり/ふらっと/事務局

第2回 12月5日(金) 10:00~12:00 市民交流センター ふれあいホール

参加事業所: ひかり福祉会 GH/GH カノン/ひだまり/すみれ GH/あそしあ/湖北タウンホーム/湖北まこも/アトラス高月/おおぞら福祉会/ひだまり/ひだまり/すだち/長浜市/そら/ふらっと/基幹相談/事務局

・学卒関係者連絡会 6月27日/10月24日/12月19日/2月20日

参加機関: 長浜養護学校/長浜北星高等養護学校/愛知高等養護学校/甲南高等養護学校/鳥居本養護学校/テクノカレッジ米原/長浜公共職業安定所/長浜市/米原市/基幹相談/はたらき・くらし応援センターこほく

Ⅷ 総括

令和6年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会

会議等実施回数	120回以上	(作業班運営会議/事業所等連絡会はカウント除く)
参画述べ人数	1597人以上	

以上

令和7年3月末日

長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局